

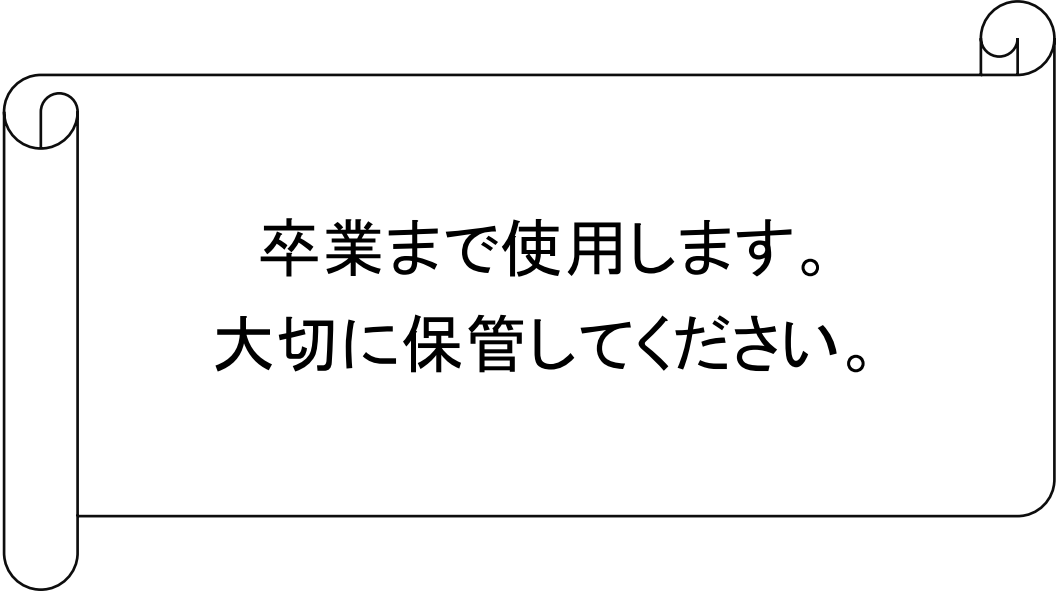
履修の手引き

令和 7 年度 入学生用

医療科学部 作業療法学科

Nagoya Aoi University

名古屋葵大学



卒業まで使用します。
大切に保管してください。

目次

《共通編》

I. はじめに	3
II. 学生支援センターの場所	3
III. 授業について	4
1. 授業の開講形態	4
2. 授業時間割	4
3. 授業・試験時間	4
4. 授業科目の種類	4
5. 休講	5
6. 補講	6
7. 出席確認	6
8. 欠席・遅刻・早退	7
9. オフィスアワー	7
10. ポータルサイト	7
11. 合理的配慮	7
IV. 履修について	8
1. 単位制度	8
2. 卒業要件	8
3. 履修登録単位数の上限設定(CAP 制)	8
4. 履修登録と手順	10
5. 履修登録の留意点	11
6. 特別履修届の提出について	11
7. 免許・資格の申請、取り消しについて	11
8. 履修登録時のチェックシート	12
9. シラバスの見方	13
10. 教育課程	14
11. 『カリキュラムマップ』と『カリキュラムツリー』	14
12. 科目ナンバリングについて	15
13. 開放科目について	16
14. 単位互換制度	17
15. 海外留学	17
V. 試験について	18
1. 試験の種類と方法	18
2. 期末試験	18
3. 追試験	18
4. やむを得ない理由を証明する書類	18
5. 再試験	18
6. 追試験・再試験手続一覧	19
7. 受験資格	19
8. 受験時の諸注意(期末試験、追・再試験)	19
9. 追試験・再試験の手続きの流れ	21

VI. 成績評価について.....	22
1. 成績の評価・単位の認定.....	22
2. 成績の通知.....	22
3. 成績の問い合わせ.....	22
4. GPAについて.....	22
VII. 規程.....	23
VIII. 教務関係の用語集.....	23

《学科編》

1. ディプロマポリシー(学位授与の方針).....	25
2. カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針).....	26
3. 教育課程.....	28
全学共通科目.....	28
作業療法学科.....	29
(1)教育目的について.....	29
(2)授業科目について.....	29
(3)進級要件について.....	31
(4)教育課程について.....	32
カリキュラムマップ、カリキュラムツリー.....	34
履修モデル(作業療法学科).....	40
4. 免許・資格.....	42
(1)作業療法士.....	42

I. はじめに

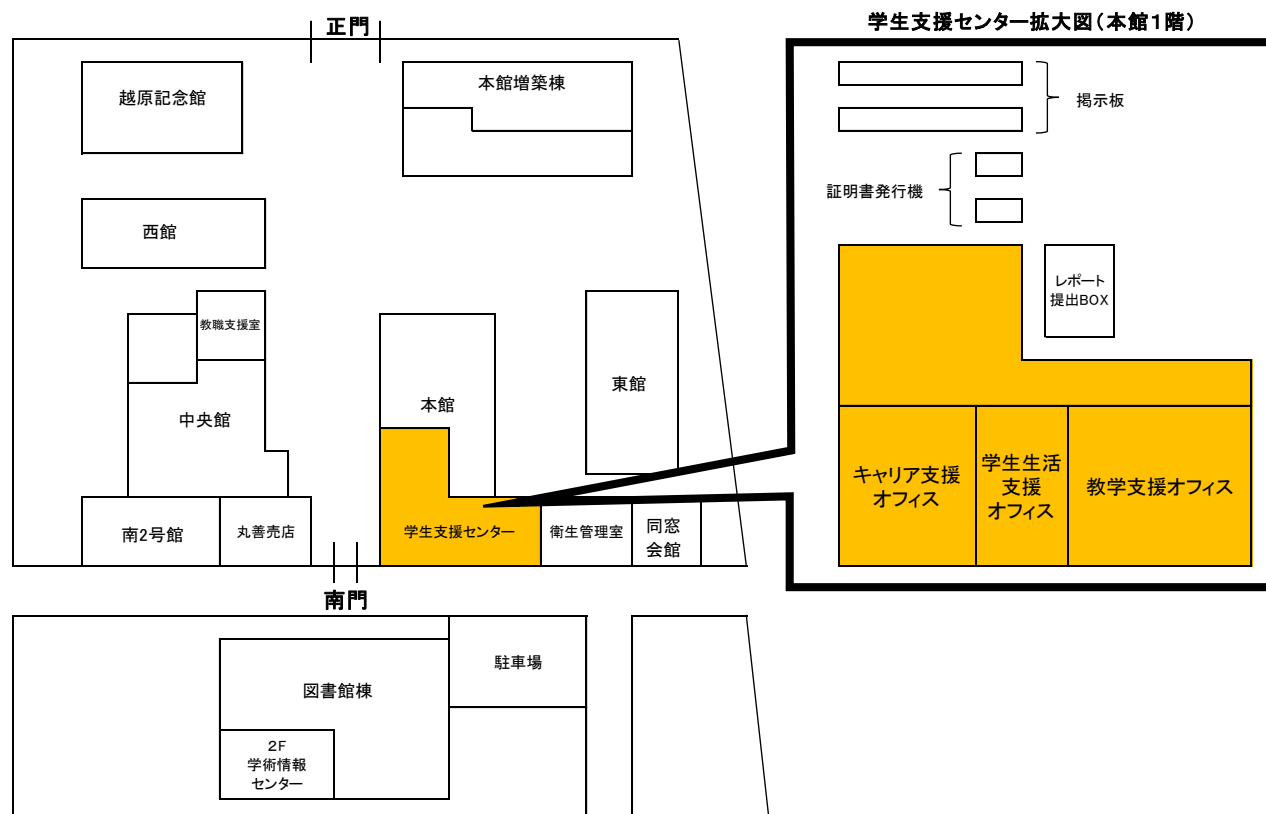
大学の勉学には、これまでの小学校、中学校、高等学校の勉学の仕方と、大きく異なる点があります。それは、何に対しても、指示を待つのではなく、自分から学ぼうとする姿勢を持たなければならないということです。その際に、この『履修の手引き』が大きな役割を果たします。

《共通編》は、授業・履修・試験などの説明です。大学では単位制が採用され、卒業に必要な単位数が決められています。単位を修得するためには「履修登録」をした上で、授業に出席しなければなりません。履修登録には期日が決められている上、履修計画を立ててから手続きをする必要があります。この手引きをよく読んで、提出期限に遅れたり、手続き方法を間違えたりしないよう十分注意してください。提出が遅れると授業が受けられません。そのほか、授業時間、試験や成績のことについても書かれていますので、必ず熟読してください。

《学科編》には、教育課程(カリキュラム)が掲載されています。どの授業科目を履修するかを決めるときは、「授業計画(シラバス)」とともに活用してください。免許や資格については、《学科編》の「4.免許・資格」で詳しく説明しています。

学生の皆さんは、この『履修の手引き』を卒業まで活用して、単位数が不足して卒業できないということのないように十分注意してください。また、不明点がある場合は、指導教員や学生支援センター・教学支援オフィスでたずねてください。

II. 学生支援センターの場所



III. 授業について

1. 授業の開講形態

本学で開講される授業の開講形態は次のとおりです。

- 1) 通年開講……………1 年間にわたって授業が行われます。
- 2) 半期開講……………原則として前期あるいは後期の半年間授業が行われます。
- 3) 集中講義……………上記の通年または半期開講科目が、教育上特別な理由があると認められる場合、あるいは特別の事情により毎週授業が行えない場合、夏期及び冬期の休業期間中またはその前後に短期間で集中的に授業が行われます。

2. 授業時間割

ポータルサイトで授業時間割の確認ができます。また、本館1階掲示板にも掲示します。(事情により授業時間割・教室を変更したときも、ポータルサイト(教務掲示一覧)と掲示板でお知らせします。)

授業等の日程は、学事カレンダーとしてポータルサイトと大学 Web サイトに掲載しています。

ポータルサイト: TOP (HOME) > 年間予定 > 学事カレンダー

大学 Web サイト: HOME > 在学生の方へ > 年間スケジュール

3. 授業・試験時間

本学の授業及び試験の時間は次のとおりです。

1・2 限	9 : 0 0 ~ 1 0 : 3 0
3・4 限	1 0 : 4 0 ~ 1 2 : 1 0
5・6 限	1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 3 0
7・8 限	1 4 : 4 0 ~ 1 6 : 1 0
9・10 限	1 6 : 2 0 ~ 1 7 : 5 0

1・2・3 限	9 : 0 0 ~ 1 1 : 2 0
2・3・4 限	9 : 5 0 ~ 1 2 : 1 0
5・6・7 限	1 3 : 0 0 ~ 1 5 : 2 0
7・8・9 限	1 4 : 4 0 ~ 1 7 : 0 0

大学の授業時間は、通常 45 分を「1 時間」の授業とみなし、「2 時間」(=90 分)の授業が基本となります。

4. 授業科目の種類

授業科目は、その内容、形態により講義、演習、実験・実習及び実技のいずれかの種類に分けられ、それぞれ

1 単位当たりの学修に必要な時間数(単位計算基準)が次のように定められています。

講義科目(1 単位に必要な授業時間数は 15 時間)

- 1 単位の場合 (毎週 2 時間の授業) × 8 回…半期科目
- 2 単位の場合 (毎週 2 時間の授業) × 15 回…半期科目
- 4 単位の場合 (毎週 2 時間の授業) × 30 回…通年科目

演習科目(1 単位に必要な授業時間数は 30 時間)

- 1 単位の場合 (毎週 2 時間の授業) × 15 回…半期科目
- 2 単位の場合 (毎週 2 時間の授業) × 30 回…通年科目

実験・実習・実技科目(1 単位に必要な授業時間数は 45 時間。ただし、全学共通科目<体育・健康科目>のスポーツ 1、2 に必要な授業時間数は 30 時間)

- 1 単位の場合 (毎週 3 時間の授業) × 15 回…半期科目
- 2 単位の場合 (毎週 3 時間の授業) × 30 回…通年科目

学科によっては一部の科目で上記とは異なる授業時間数が設定されている場合があります。

各科目の授業形態、単位数、授業時間数(週時間数)は、各学科の「教育課程」の表を参照してください。

5. 休講

本学の行事あるいは授業担当教員のやむを得ない理由により、授業を休講にすることがあります。

- 1) あらかじめわかっている休講は、本館 1 階掲示板に掲示およびポータルサイトから連絡します。
- 2) 休講掲示やポータルサイトからの連絡がなく、授業開始時刻から 30 分以上経過しても授業担当教員が現れない場合は、学生支援センター教学支援オフィスに連絡して、指示を受けてください。
- 3) 地震、台風等の災害や交通機関のストライキにより運行が中止された場合の授業、試験は次のとおり取り扱いします。

災害及び交通機関ストライキに係る発表・発令等		発表・発令等の時間	本学の講ずる措置
「南海トラフ地震臨時情報」の発表	「南海トラフ地震臨時情報（調査中・巨大地震注意・巨大地震警戒）」が発表された場合	発表された時刻	発表時点でそれ以降の授業は休講 授業再開などその後の対応は、大学 Web サイトやポータルサイトで案内します。
	「南海トラフ地震臨時情報（調査終了）」	午前 6 時現在 発表されている場合	平常通り授業
		午前 10 時現在 発表されている場合	午後から授業
「特別警報」または「暴風警報」の発令	名古屋市に発令された場合	午前 6 時現在 発令されている場合	午前中休講
		午前 10 時現在 発令されている場合	全日休講
避難指示（警戒レベル4）の発令	名古屋市瑞穂区汐路学区に発令された場合	午前 6 時現在 発令されている場合	午前中休講
		午前 10 時現在 発令されている場合	全日休講
交通ストライキ	名古屋市営の交通機関、名鉄、JR のいずれか一つの交通機関が交通ストライキを行った場合（その他の交通機関は平常通り授業、試験を実施する）	午前 6 時現在 ストが継続している場合	午前中休講
		午前 10 時現在 ストが継続している場合	全日休講
上記以外の場合において、授業、試験を実施することが困難であると予想されるときは、本学の防災本部、防災対策委員会の指示により休講措置等の判断を行います。			

次の場合は、上の表に準じて取り扱います。（授業、試験は実施されますが、出校できなかった場合は、学生支援センター教学支援オフィスで必要な手続きをすることにより欠席にはなりません。）

- ①名古屋市以外の居住者の居住区域、通学経路に「特別警報」または「暴風警報」が発令された場合
- ②名古屋市瑞穂区汐路学区以外の居住者の居住区域に避難指示(警戒レベル4)が発令された場合
- ③災害等により、交通機関が不通になった場合(計画運休含む)
- ④上の表以外の交通機関がストライキを行った場合

※上記①～④により受験できなかった期末試験科目については、学生支援センター教学支援オフィスで所定の手続きをすれば、追試験を受験できます。

6. 補講

休講により規定の授業時間数に満たない場合には補講が行われます。

補講は次のいずれかの方法で行います。

- 1) 指定された土曜日に実施します。補講日として指定された土曜日は、ポータルサイトの年間予定タブに掲載されている「学事カレンダー」で確認してください。
- 2) 授業期間中の空き時間に行います。
- 3) その他教員の指示がある場合には、それに従ってください。

補講の連絡は、本館 1 階掲示板に掲示し、ポータルサイトから連絡します。

※ポータルサイトを利用して、授業時間割確認及び休講・補講・教室変更情報等を参照できます。メッセージ転送設定をすると、登録されたアドレスに休講や補講等の情報が配信されます。使用方法是、「ポータルサイト操作マニュアル」を参照してください。

＜ポータルサイト操作マニュアルへのアクセス＞



ポータルサイト: TOP (HOME) > ポータルサイトの使い方

URL: https://gakusei.nagoya-aoi.ac.jp/portal/pdf/manyual/portal_manual.pdf

7. 出席確認

講義室の出入口付近に、出席管理システムと連携した学生証を利用した認証のためのカードリーダーが設置されています。カードリーダーが設置されている教室では、学生証をかざして出席の認証を行ってください。

出席管理システムでは、出席状況の確認や欠席届を提出することができます。随時、出席状況を確認し、登録内容に誤りがあった場合は、授業担当教員に申し出てください。

出席管理システムと学生証による認証方法については、以下のマニュアルを確認してください。

＜出席管理システムへのアクセス＞



ポータルサイト: TOP (HOME) > 学内リンク > 出席管理システム

URL: <https://attendance.cn-management.jp/asp/student/index.php>

＜出席管理システム操作マニュアルへのアクセス＞

ポータルサイト: TOP (HOME) > 学内リンク > 出席管理システムマニュアル

URL: [https://gakusei.nagoya-aoi.ac.jp/portal/pdf/manyual/Attendance_management_manual\(S\).pdf](https://gakusei.nagoya-aoi.ac.jp/portal/pdf/manyual/Attendance_management_manual(S).pdf)



＜出席管理システム(よくある質問)へのアクセス＞



ポータルサイト: TOP (HOME) > 学内リンク > 出席管理システム(よくある質問)

URL: [https://gakusei.nagoya-aoi.ac.jp/portal/pdf/manyual/Attendance_management_manual\(SQ&A\).pdf](https://gakusei.nagoya-aoi.ac.jp/portal/pdf/manyual/Attendance_management_manual(SQ&A).pdf)

- ◆ 学生証の認証による出席の確認は、授業開始 9 分前から可能です。
- ◆ 学生証を忘れた場合、または学生証の認証が正しくされなかった場合、授業開始前に授業担当教員に申し出てください。
- ◆ 学生証が登録されていない場合、カードリーダーにかざすと「登録がありません」とメッセージが流れます。
- ◆ 機器の不調や故障の場合は、学生支援センター・教学支援オフィスに連絡してください。

8. 欠席・遅刻・早退

- 1) やむを得ない理由(試験欠席の理由に準ずる P.18 参照)で授業を欠席する場合は、「欠席届」を授業担当教員に提出してください。「欠席届」は、出席管理システムから提出できます。学生支援センター教学支援オフィスで配布している欠席届の用紙に記入して提出することもできます。
- 2) 授業の遅刻・早退に関する取り扱いは、次のとおりです。
 - ① 授業開始時間に遅れた者は、遅刻として取り扱います。
 - ② 授業終了まで受講していない者は、早退として取り扱います。
 - ③ 遅刻及び早退は、計 3 回をもって欠席 1 回とみなします。
 - ④ 1 回の授業時間の 3 分の 1 以上(講義・演習科目は 30 分以上、実験・実習科目は 45 分以上)の遅刻及び早退は欠席として取り扱います。

9. オフィスアワー

教員は学生からの様々な質問に応じるための時間「オフィスアワー」を設けています。オフィスアワーの時間帯には教員が研究室に在室し、授業内容やその他学修に関する様々な相談を受け付けています。各教員のオフィスアワーの設定時間は、教員によって異なりますので、「オフィスアワー一覧表」で確認してください。ポータルサイトの「オフィスアワー」からも確認できます。各教員の研究室の場所も記載されています。

＜オフィスアワー一覧表へのアクセス＞



ポータルサイト: TOP (HOME) > My 時間割 > オフィスアワー

URL: https://gakusei.nagoya-aoi.ac.jp/office_hour/office_hour.pdf

10. ポータルサイト

ポータルサイトとは、大学からのお知らせや履修登録、成績発表など、大学生活を送る上で必要な様々な機能が集約されたサイトです。手続きなどの重要なお知らせを見落とさないように気を付けてください。履修登録漏れ、試験などに係る申請不備による不利益はすべて自己責任となりますので、ポータルサイトからの配信はこまめに確認しましょう。

＜ポータルサイトへのアクセス＞



大学 Web サイト > 在校生の方へ > 学生ポータルサイト

URL: <https://portal.nagoya-aoi.ac.jp/campusweb/top.do>

＜ポータルサイト操作マニュアルへのアクセス＞

ポータルサイト: TOP (HOME) > ポータルサイトの使い方

URL: https://gakusei.nagoya-aoi.ac.jp/portal/pdf/manyual/portal_manual.pdf



11. 合理的配慮

授業の受講や試験時に障がいサポート(合理的配慮)を希望する場合は、衛生管理室に申し出てください。ただし、対応可能な配慮は科目により異なります。

IV. 履修について

1. 単位制度

大学の授業科目の履修には、大学設置基準に基づく単位制を採用しています。

- 1) 単位制とは、各年次に配当されている授業科目を履修して、その授業科目に定められている単位を修得(所定の試験に合格)し、これらの単位を一定数蓄積することにより卒業(あるいは各種免許・資格が取得)できる制度をいいます。
- 2) 単位とは、一つの授業科目の修得に必要な時間を示す基準であり、試験(筆記、レポート等)に合格することにより、その授業科目の単位の修得が認められます。1 単位を修得するには、授業時間と授業時間外に必要な学修等をあわせて 45 時間の学修時間を必要とします。

2. 卒業要件

大学を卒業するためには、4 年以上在学し、学科ごとに定める教育課程に従って授業科目を履修し、下表に示す所定の単位数以上を修得しなければなりません。

卒業に必要な単位数 ※括弧内の数字は、必修科目の単位数(内数)

【医療科学部】

学科	全学共通科目	学部学科間 共通科目	専門基礎 分野科目	専門 分野科目	合計
理学療法学科	14(7)以上	113(106)以上			127(113)以上
作業療法学科	29(14)以上		101(100)以上		130(114)以上

自由選択科目

科目区分の制限はありません。各科目区分で定められた卒業に必要な単位数を超えて修得した単位数で充足されます。

単位互換科目

単位互換制度を利用して取得した単位は、「自由選択科目」に算入されます。詳しくは、P.17「14.単位互換制度」を確認してください。

3. 履修登録単位数の上限設定(CAP 制)

各学期・年間の履修登録をする際に、履修登録単位数の上限を設定しています。履修登録単位数の上限を設定することを CAP 制といいます。

履修登録単位数の上限設定により、多くの科目を広く浅く学修するのではなく、学修すべき授業の単位制度が実質化(1 単位を修得するにあたって必要な学修時間 45 時間を確保)され、各年次にわたって適切に授業科目を履修でき、授業内容を深く身に付けられるようになります。

1) 全学部学科で上限単位数から除外する科目等

- ①入学前の既修得単位、大学・短大以外の教育施設等における学修により単位認定された科目
- ②全学共通科目:「建学のこころ」

- 2) 集中講義科目、愛知学長懇話会における単位互換科目及び名古屋女子大学短期大学部単位互換科目は当該開講学期に含めます。
- 3) 学長が特に必要と認めた学生は、上限単位数を超えて履修登録を認めることがあります。この場合の単位数は教授会で決定します。
- 4) 通年開講科目の単位は、前期・後期に等分して、各学期に配分します。
- なお、年間で上限単位を定めている場合の、前期、後期ごとの履修登録単位数の配分については弾力的に扱います。学科の履修指導に従ってください。

学部	学科	履修登録の上限単位数								その他上限単位数から除外する科目
		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	
医療科学部	理学療法学科	42		42		42		42		臨床実習
	作業療法学科	42		42		42		42		臨床実習

4. 履修登録と手順

具体的な日程は、オリエンテーションで配布する「Web 履修登録日程表」を参照してください。

オリエンテーション

- ・新入生オリエンテーション、在学学生オリエンテーションで履修登録の説明を聞きます。

履修計画

- ・「履修の手引き」や「シラバス」、「時間割表」を参照し、必修科目や資格取得に必要な科目を確認して、1年間の履修計画を立てます。
- ・1年間に履修できる単位数には上限があります。(履修の手引きP.9参照)
- ・科目によって、履修するための条件(前提科目)があります。そのため、資格取得に必要な専門科目を全て履修してから、全学共通科目の履修を計画しましょう。

Web履修登録

- ・履修計画をもとに、ポータルサイトで履修登録を行います。前期に後期科目の履修登録も行います。
- ・ポータルサイトで履修登録できない科目は、学生支援センター教学支援オフィスにある「特別履修届」に記入し、指導教員の確認を受けて提出します。
- ・履修登録期間は、受講する科目を検討する期間です。履修予定科目には初回の授業から出席してください。
- ・後期の履修登録期間は、後期科目のみ追加・削除が可能です。

資格申請

- ・取得を希望する免許・資格を申請します。
- ・資格申請をすることで、卒業学年時に資格取得見込判定の確認ができます。

一次抽選

- ・履修者数に定員のある科目では抽選により履修者を決めます。
- ・抽選科目の履修を希望する場合は、一次抽選日までに履修登録を行い、抽選結果を必ず確認してください。抽選結果が決まる前の授業にも出席してください。
- ・後期は、履修者数に余裕がある抽選科目の追加登録(先着順)が可能です。(後期は抽選を行いません。)
- ・教科書は返品ができないので、当選してから購入してください。

二次抽選

- ・履修者数に余裕がある科目の二次抽選に申し込むことができます。

履修確認

- ・履修計画とWeb履修登録した科目が合っているか、履修登録漏れがないか確認します。
- ・履修登録の修正が必要な場合は、「履修登録修正願」に記入し、指導教員の確認を受けて、学生支援センター教学支援オフィスへ提出します。

履修登録 科目の確定

- ・履修登録が確定します。

5. 履修登録の留意点

- 1) 「履修の手引き」で卒業要件、各種免許・資格に必要な科目、単位を確認して、「授業計画(シラバス)」を熟読して1年間の履修計画を立ててください。

(注)履修登録確定後に授業科目の受講を放棄した場合は、GPAに影響しますので注意してください。

- 2) 授業時間割で履修する科目の曜日・時限を確認し、履修登録しようとする科目が重複しないように注意してください。
- 3) 登録ミス、登録漏れのないように注意してください。
- 4) 定員が設定されている抽選科目は、抽選後に必ずポータルサイトで受講可能か確認してください。
- 5) 履修登録確定後の授業科目の追加・変更及び放棄は原則として認められません。
- 6) 履修者が少ない授業科目は、不開講となることがあります。
- 7) 授業科目については、履修できる学年(配当学年)が決まっています。下級学年に配当されている授業科目は履修できますが、上級学年に配当されている授業科目は履修できません。なお、配当学年において、卒業必修科目を修得できなかった場合、次年度以降の該当科目の履修登録については、学生支援センター教学支援オフィスでの手続きが必要となります。

6. 特別履修届の提出について

以下に該当する場合は、「特別履修届」を学生支援センター教学支援オフィスへ提出する必要があります。

「特別履修届」は、学生支援センター教学支援オフィスにあります。

- 1) 全学共通科目[必修科目]を他学科で下級履修する場合
- 2) 全学共通科目[外国語科目]を他学科で履修(あるいは下級履修)する場合
- 3) 専門科目を他クラスで履修(あるいは下級履修)する場合
- 4) 読替を要する科目を履修する場合

7. 免許・資格の申請、取り消しについて

免許・資格申請の登録は、履修登録期間中にポータルサイトの「資格申請・取消」から必ず行ってください。

また、卒業学年の後期履修登録期間に登録済の免許・資格を取り消す場合は、「免許・資格申請書」を提出してください。申請書は、学生支援センター教学支援オフィスにあります。

8. 履修登録時のチェックシート

履修登録および資格申請の追加・削除は、履修登録期間以外は原則認められません。そのため、履修登録時は、下のチェックシートを活用して、慎重に手続きを行ってください。

項目	内容	チェック欄			
		1年次	2年次	3年次	4年次
		前期 後期	前期 後期	前期 後期	前期 後期
① 履修計画	現在の単位修得状況、卒業要件、資格要件を確認して、1年間の履修計画を立てましたか？（後期では、前期成績を確認して計画の見直しをしましたか？） ※履修できる単位数には上限があります。（P.9 参照）	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
② 履修登録、 免許・資格申請	専門科目の選択科目は登録しましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	集中講義（実習関連・卒業研究などを含む）は登録しましたか？ ※特に、後期の集中講義科目は履修登録忘れが起きやすいです。	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	全学共通科目および教職科目は登録しましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	希望する免許・資格の申請登録はしましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	【該当者のみ】進級・卒業および資格取得の見込判定結果を確認しましたか？ ※判定が「可」にならないと、見込証明書の発行はできません。	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	【該当者のみ】前年度単位修得できなかった科目など、Web 履修登録ができなかった科目は、学生支援センター教学支援オフィスで申請しましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
③ 申請内容確認	Web 履修登録完了後、ポータルサイトに「履修登録受付完了」メッセージが届きましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	抽選科目の結果（当落）を確認しましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	履修登録修正期間に、ポータルサイトの「My 時間割」で申請内容が反映されているか確認しましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓
	【該当者のみ】履修登録修正期間に「履修登録修正願」を提出した場合、後日「My 時間割」に申請内容が反映されていることを確認しましたか？	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓	✓ ✓

9. シラバスの見方

シラバスはポータルサイトからアクセスできます。授業を選択する時には、シラバスを熟読してください。

シラバス参照

更新履歴画面へ戻る

お気に入りに追加する

科目名	建学のこころ
講義コード	
担当者	越原 もゆる
学年	1年
対象学科・専攻	
クラス	
単位数	1
開講時期	前期
授業形態	講義
備考	

基本情報

科目名、授業担当教員、学年、対象学科、単位数、開講時期など

授業の目的と概要

科目ナンバリングと授業の教育目標を確認できます。

授業の目的と概要	UAO 0 00 L 1 01 Z (1) 本学創設者の生家に隣接する越原学園で学ぶことにより、学園訓「親切」の意義と「建学の精神」を理解し、本学の教育理念・目的について認識を深める。 (2) 共同生活を通じて自己啓発するとともに、豊かな感性と柔軟な思考力を養い、4年間の学修の目標を立て、その設計を確かなものとする。
授業の到達目標	【DP1】 本学創立の歴史や時代背景を理解し、学園訓「親切」の意味を深く考え、創立者の現代社会を生きる学生へのメッセージを掴み取ることができる。 【DP2】 共同生活を通じて自己啓発に努め、豊かな感性と柔軟な思考力を養い、大学4年間の学修の目標を立てることができる。 【DP3】 主体的に自分の役割を果たすとともに、多様な価値観を持つ他の学生と協働することができる。
授業計画概要	岐阜県東白川村で越原(おっばら)学園研修を行います。
授業計画	第1回 越原学園研修のオリエンテーション
学修上の留意事項	・「建学のこころ」は、新入生オリエンテーションから始まる。 ・越原記念館巡覧や越原(おっばら)研修への準備段階でも主体的な参加が望まれる。 ・越原学園では共同生活を楽しく進めるとともに、自己規律の育成に努めること。
授業外学修の指示	・越原学園研修の前に、「美濃少女」、「もえのぼる」、「建学のこころ(越原研修のしおり)」等を熟読しておくこと。 ・1回の授業につき270分を基準として学修すること。
学修eポートフォリオ	学修eポートフォリオおよび教職「履修カルテ」の対象科目ではありません。
成績評価基準	【DP1】については、レポートの内容から評価する(20%)。 【DP2】については、レポートの内容から評価する(40%)。 【DP3】については、越原学園研修準備ならびに研修時の主体性、協働性から評価する(40%)。 レポートは採点後、返却する。 各々の評価は総合的学習評価ルーブリックに基づいて行い、合計100%を満点としてS,A,B,C,D評価は大学の基準による。
テキスト	
テキスト(自由入力)	越原春子日誌「美濃少女」(みのおのとめ)、越原一郎(編)、学校法人越原学園 越原春子伝「もえのぼる」 南部 弘(著)、学校法人越原学園 「大学で学ぶということ」 名古屋英大
参考資料ファイル	建学のこころ成績評価基準.pdf
担当者の実務経験	なし
参考図書	

授業の到達目標

授業終了時に身に付く能力、何ができるようになるかを確認できます。またディプロマポリシーとの関連を確認できます。

授業計画

各回の授業内容を確認できます。授業担当者が複数人の場合、授業回数ごとの担当教員が記載されています。

学修上の留意事項

授業を履修する上で必要な取り組みと、条件(前提科目)を確認できます。

授業外学修の指示

授業以外に必要な予習・復習の学修内容と時間が記載されています。

成績評価基準

成績評価の基準と割合が記載されています。

テキストと参考図書

- ・テキスト:
授業で使用する教科書です。購入してください。
- ・参考図書:
授業に関連する参考資料です。図書館に所蔵されています。

更新履歴画面へ戻る

印刷

10. 教育課程

教育課程(カリキュラム)は、全学共通科目と学部・学科共通科目、学科専門科目等に分けて編成されており、それぞれに修得しなければならない最低単位数が定められています。また、各授業科目の区分には必修科目と選択科目があり、体系的に修得できるように各年次に配当されています。授業科目を選択する場合は、系統図(カリキュラムツリー)をよく見て考えてください。例えば、科目間の矢印や、1 や 2 と番号が振られている科目を 2 から先に選択すること、また、講義の前に演習や実習を選択することは避けてください。

必修科目

教育課程のうち、必ず単位を修得しなければならない科目

選択科目

教育課程のうち、自由に選択して単位を修得することができる科目

- 上記のほか各種免許・資格に関する授業科目が開設されています。これらは、卒業の要件に含まれない科目もありますが、いずれもその免許・資格を取得する上で必要な科目です。

11. 『カリキュラムマップ』と『カリキュラムツリー』

カリキュラムマップとカリキュラムツリーは、身に付けてほしい知識・能力と授業科目との対応関係を体系的にわかりやすく示したものです。詳しくは《学科編》で確認してください。

カリキュラムマップ

ディプロマポリシー(学位授与の方針)と授業科目の関係を示したものです。

卒業時に学科のディプロマポリシーの達成目標に到達するため、授業科目と学修成果の関係を説明しています。授業科目によって育成する能力が異なるため、伸ばしたい能力など必要に応じて科目選択の参考にしてください。

カリキュラムツリー

到達目標を達成するために、授業科目間の系統性や関連性、配当年次を示しています。

履修の際には、左側にある科目から履修することが前提となりますので、履修計画を立てる際の参考にしてください。

12. 科目ナンバリングについて

科目ナンバリングは、学修の段階や順序等を英数字で表示することにより、教育課程の体系をわかりやすくし、履修登録時の目安とするために設定しています。科目ナンバリングのコードは、以下の構成となっています。

例)大学全学共通科目「日本国憲法」の場合

UA0 0 32 L 2 06 L - N2N3T1T3T4T5T6T7
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦

①と②の間の「0」は予備コードです。

①学部・学科コード

学部・学科	コード	学部・学科	コード	学部・学科	コード
大学全学共通科目	UA0	健康科学部学科間共通科目	HB0	医療科学部学科間共通科目	MB0
生活環境学部生活環境学科	EE0	健康科学部健康栄養学科	HH0	医療科学部理学療法学科	MP0
生活環境学部教職課程	ET0	健康科学部看護学科	HN0	医療科学部作業療法学科	MO0
		健康科学部教職課程	HT0	児童教育学部児童教育学科	CC0

②分野コード(数字 2 文字)

図書館の分類表と同じ分類(日本十進分類法の 2 次区分表)を使用し、科目の分野を表現しています。

③授業形態

授業形態	コード	授業形態	コード	授業形態	コード	授業形態	コード	授業形態	コード
講義	L	演習	E	実験	M	実習	T	実技	P

④科目分類(数字またはアルファベット 1 文字)

各学科の教育課程の科目分類ごとに区分しています。全学共通科目は数字 1 文字、専門科目はアルファベット 1 文字です。

⑤授業識別番号(数字 2 文字)

科目分類と合わせて、授業を識別するための個別コードです。

⑥レベル

レベル	コード	レベル	コード	レベル	コード	レベル	コード
基礎的な内容	L	発展的な内容	M	卒論・実習系	H	その他	Z

⑦資格コード

資格取得に関係する科目には、資格コードが付与されています。

資格名称	コード	資格名称	コード	資格名称	コード
一級建築士受験資格	A1	保育士	H1	幼稚園教諭一種免許状	T1
二級建築士・インテリアプランナー受験資格	A2	秘書士	S1	幼稚園教諭二種免許状	T2
テキスタイルアドバイザー	C1	医療秘書実務士	S2	小学校教諭一種免許状	T3
フォーマルスペシャリストブロンズライセンス	C2	情報処理士	J1	中学校教諭一種免許状(国語)	T4
ドレメ式教員認定	C3	上級情報処理士	J2	中学校教諭一種免許状(家庭)	T5
栄養士免許証	E1	ビジネス実務士	J3	高等学校教諭一種免許状(家庭)	T6
管理栄養士国家試験受験資格	E2	上級ビジネス実務士	J4	栄養教諭一種免許状	T7
食品衛生監視員及び管理者任用資格	E3	看護師国家試験受験資格	N1	理学療法士国家試験受験資格	R1
フードコーディネーター	F1	保健師国家試験受験資格	N2	作業療法士国家試験受験資格	R2
フードスペシャリスト	F2	養護教諭二種免許状	N3		

13. 開放科目について

開放科目とは、資格の専門性をより高めるために、他学部・他学科の専門科目を開放し、資格に活かせる知識が取得できるよう、履修および単位修得可能にした科目です。

開放科目は以下のとおりです。

開講学科	授業科目	学年	開講期	形態	単位数
生活環境学科	調理学	1	前期	講義	2
	被服構成学	1	後期	講義	2
	住居管理学	3	前期	講義	2
理学療法学科	地域理学療法	2	前期	講義	2
	理学療法治療学特論Ⅰ(健康増進・予防)	2	後期	講義	1
	理学療法治療学特論Ⅳ(脳機能)	3	前期	講義	1
理学療法学科 作業療法学科	解剖学Ⅰ	1	前期	講義	2
	生理学Ⅰ	1	前期	講義	2
	リハビリテーション概論	1	後期	講義	1
児童教育学科	コミュニケーション論	1	後期	講義	2
	日本文化概論	1	前期	講義	2

※上記科目の上級履修はできません。また、時間割編成の配慮はしません。開講期は変更になる可能性があります。

開講時期、時間割はポータルサイトの時間割で確認してください。対象科目には【開放】と記載されています。履修条件および手続きは以下のとおりです。

<対象学生>

1年生後期以降の学生(在学2年以上の場合は、前期から履修可能。)

<履修制限>

- 1)直前学期のGPAが2.0以上
- 2)履修上限単位数に含まれます。(「自由選択科目」のない学科を除く)

<修得単位>

修得した単位は、「自由選択科目」に算入されます。また、成績評価はGPAの算出対象となります。(「自由選択科目」がない学科は、卒業要件単位には含まれませんが、履修は可能です。)

<手続き方法等>

上記科目の履修を希望する場合は、履修希望科目の開講期の履修登録期間に、「開放科目履修願」に記入して、学生支援センター教学支援オフィスへ提出してください。

<履修の可否>

手続き後、所属学科の確認と開放科目を開講している学部の教授会で審議されます。審議結果は、指導教員から前期5月下旬、後期10月下旬に連絡があります。(審議結果の連絡があるまで、授業は出席してください。)

14. 単位互換制度

単位互換制度とは大学間の協定に基づき、他の大学または短期大学で履修し修得した単位を在籍する大学の履修で修得したものとみなす制度です。本学では、「名古屋葵大学と名古屋女子大学短期大学部の単位互換に関する協定」並びに、愛知学長懇話会に加盟する大学・短期大学において締結された「単位互換に関する包括協定」に基づく制度があります。

1) 名古屋女子大学短期大学部との単位互換制度

名古屋女子大学短期大学部の一部授業科目について履修及び単位修得が可能です。下記の内容を十分に理解して手続きをしてください。

①名古屋女子大学短期大学部 単位互換科目一覧

授業科目	授業形態	単位数
簿記演習 3	演習	1

②履修時期

1 年生後期

③単位数の算入

上記単位互換科目は、卒業要件の一覧表の自由選択科目の単位数として算入されます。

④履修登録について

上記科目を履修する際は、「単位互換科目履修願」を学生支援センター教学支援オフィスへ提出する必要があります。手続き期限は以下のとおりです。

前期科目：4 月第 2 木曜日まで

後期科目：9 月第 2 木曜日まで

2) 愛知学長懇話会の単位互換制度

他大学の単位互換向けに開放される科目の履修及び単位修得が可能です。詳しくは、本館 1 階掲示板と愛知学長懇話会ホームページを確認して手続きしてください。

URL: <https://aichi-gakuchou.jimu.nagoya-u.ac.jp/>

15. 海外留学

留学先で修得した授業科目の単位は 60 単位を上限として、本学で修得した単位として認められます。単位の認定を希望する場合は、留学前に学科の先生に相談して指導を受けてください。

海外留学については、学生生活の手引き「翔」または、大学 Web サイトの「留学制度・奨学金制度」を参照してください。海外交流室または学生支援センター学生生活支援オフィスに相談することもできます。

<留学制度・奨学金制度へのアクセス>



大学 Web サイト>在校生の方へ>留学制度・奨学金制度

URL: <https://www.nagoya-aoi.ac.jp/students/ryugaku.php>

V. 試験について

1. 試験の種類と方法

試験の種類には、「期末試験」「追試験」及び「再試験」があります。

試験は、「筆記」「レポート」「論文」「作品」「実技・実習」等の方法で実施されます。

2. 期末試験

1) 期末試験は、前期末に行うものを前期試験、後期末に行うものを後期試験といいます。

2) 期末試験は、前期開講科目については前期試験において、後期及び通年開講科目については後期試験において実施します。

3. 追試験

1) 追試験は、次の授業科目について、やむを得ない理由で試験を欠席した者に対し、本学が指定する日に行います。

① 試験時間割に掲載された筆記試験を実施した授業科目

② 期末試験に代えて授業担当教員が随時に行う試験で、事前に学生支援センターに追試験期間中に実施する旨の申し出があった授業科目

2) レポート、作品等の方法で試験を実施した授業科目は追試験を実施しません。

3) 追試験を欠席した者に対し、再度追試験は実施しません。

4) 追試験の受験は、欠席理由が「4. やむを得ない理由を証明する書類」の項目に記載されている欠席理由のいずれかに該当し、当該理由を証明するに足る書類の提出が必要です。①から⑦は願い出の受理により追試験の受験が認められますが、⑧は教授会および学長が許可した場合に受験が認められます。

4. やむを得ない理由を証明する書類

欠席理由		提出書類
①	親族の危篤、死亡	理由を証明する書類または写し
②	不慮の事故または災害	事故等を証明する書類
③	病気または負傷	医療機関発行の診断書
④	公共交通機関の事故または遅延	事故又は遅延証明書
⑤	学則第 14 条に定める資格を取得するために必要な校外実習	証明書不要
⑥	就職試験(会社訪問は除く)の受験	本学所定の受験証明書
⑦	期末試験受験科目の実施日時の重複	本学所定の試験重複届
⑧	その他①から⑦に準ずるものとして学長が認めたもの	理由を証明する書類

5. 再試験

1) 再試験は、学生が期末試験を受験し、不合格となった授業科目について、前期開講科目は前期の再試験期間内において、後期および通年開講科目については後期の再試験期間内において実施します。

再試験期間は、学事カレンダーで確認できます。なお、試験に代えた授業レポート、作品等の方法で試験を受験し不合格となった授業科目も再試験を実施する場合があります。

2) 再試験を受験するためには、所定の手続きが必要です。

- 3) 再試験を欠席した者に対して、その追試験は実施しません。また、追試験で不合格となった者に対して再試験は実施しません。ただし、卒業年次の学生で、追試験と再試験において、不合格となった授業科目が、必修科目及び免許・資格(教員免許状・栄養士免許証・保育士資格・管理栄養士国家試験、看護師国家試験、保健師国家試験、理学療法士国家試験、作業療法士国家試験の受験資格)の取得要件科目の場合は、前期・後期ともに1科目に限り再試験を実施することがあります。
- 4) 校外実習(教育実習・臨地実習など)が不合格となった場合の再試験は実施しません。

6. 追試験・再試験手続一覧

	追試験		再試験	追試験・再試験で 不合格科目の再試験 (4年生のみ)
	欠席理由①～⑦	欠席理由 ⑧		
提出書類	試験欠席届＋証明書類＋追試験申込書		再試験申込書＋ 再試験願出書	再試験申込書＋ 再試験願出書
提出期限	指定された期日 (詳細日程は別途連絡)	所定の期間内 (詳細日程は別途連絡) 追試験申込書は 受験許可後に提出	所定の期間内 (詳細日程は別途連絡)	所定の期間内 (詳細日程は別途連絡)
出願科目数	上限なし		上限なし	前・後期それぞれ 1科目
提出先	学生支援センター教学支援オフィス			
受験手数料	1科目につき 1,000 円 (期末試験科目重複や校外実習による追試験は不要)		1科目につき 2,000 円	1科目につき 2,000 円

7. 受験資格

次のいずれかに該当する場合は、受験資格がありません。

- 履修登録をしていない授業科目。
- 当該授業科目の規定授業時間数(半期8回、15回、通年30回)の3分の2以上出席していない者。
- 学生証を所持していない者。
- 試験開始後15分以上遅刻した者。
- その他、教授会において受験資格がないと認められた場合。

8. 受験時の諸注意(期末試験、追・再試験)

次の受験時の諸注意は必ず守ってください。

<受験態度>

受験の際は、終始公正な態度を保ち、少しでも他から疑念をいだかれるような行為をしない。まぎらわしい行為は不正行為とみなされる場合がある。

<監督者の指示の遵守>

試験室においては、常に監督者の指示に従う。
指示に従わなかった場合は、退室を命じられる。

<学生証の提示>

受験生は、監督者が学生証を確認しやすいように、机の上に置く。もし学生証を忘れた場合は、学生支援センターにおいて仮学生証の交付を受ける。

ただし、仮学生証の有効期限は交付日のみとする。なお、交付のつど手数料 1,000 円が必要となる。また、学生証を紛失した場合、願い出れば当日中に再発行される。(手数料 1,000 円が必要)

<不正行為>

受験の際、万が一不正行為があった場合、不正行為者の当該試験科目の評価は失格となる。また、不正行為のあった学期において既に実施済の科目および残された科目もすべて失格となる。

不正行為者は、学則第 46 条の規定により懲戒処分となり、その氏名および処分内容を学内に公表される。また、本人および保証人はその通知を受ける。

<所持品の扱い>

試験中は学生証、筆記用具(特に指示のない限り、鉛筆・シャープペンシル・消しゴムのみ)、監督者が許可したもの以外は机の上に置かない。その他の手荷物も机の中に入れないで、足元に置く。

携帯電話等は試験室に入る前に電源を切っておく。また、これらを時計として使用することはできない。

<参照許可物件>

問題用紙に参照許可物件(テキスト、ノート、辞書等)が明示されている場合のみ、参照が許可される。

<遅刻>

遅刻は試験開始後 15 分までは認められる。ただし、遅刻して受験した試験の時間延長は認められない。なお、遅刻により受験できなかった科目は欠席となる。

<退室>

試験開始後 30 分を経なければ退室できない。途中退室する際は、答案を試験監督者に提出し静かに退室する。

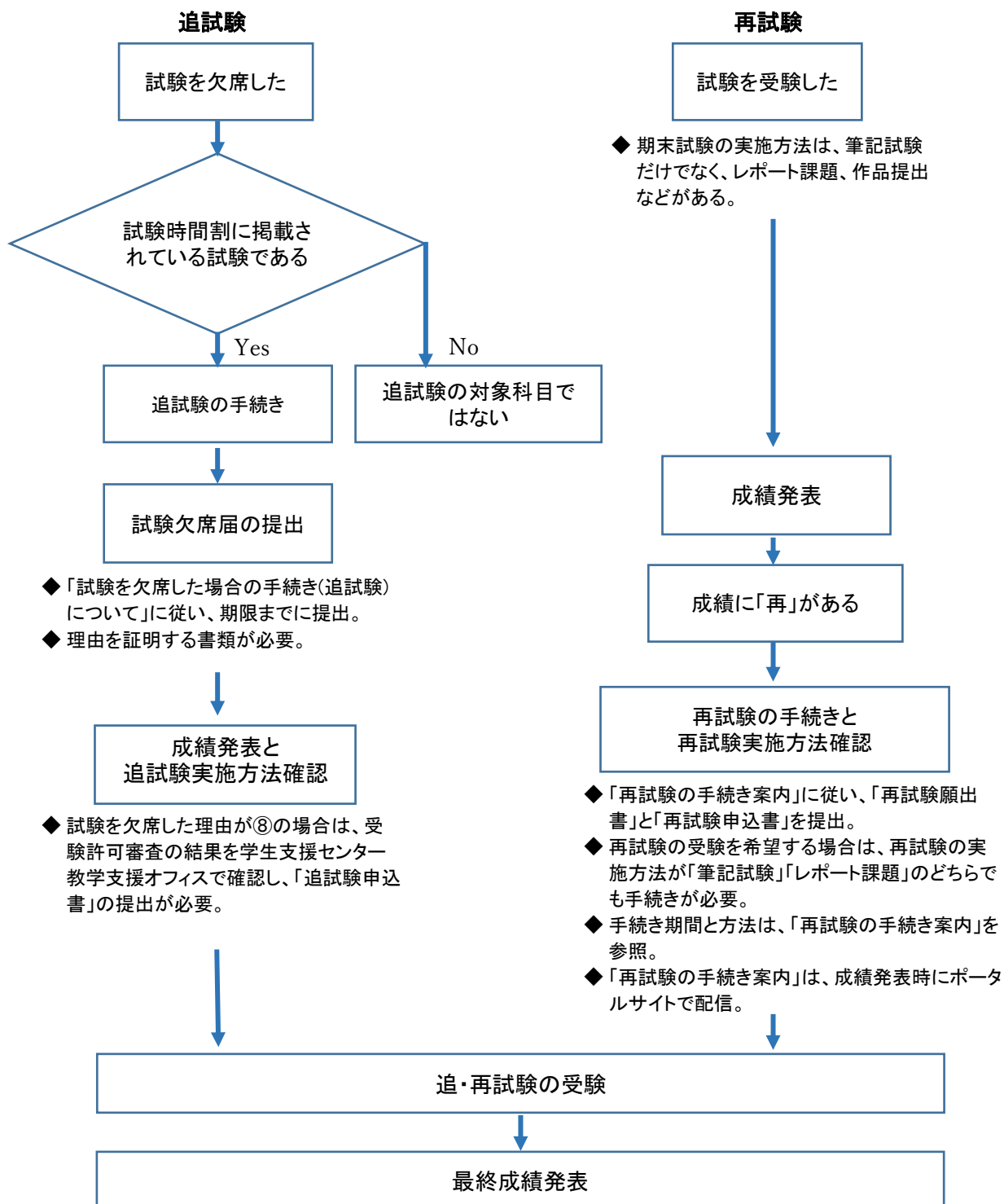
<再入室の禁止>

いかなる場合でも、試験室からいったん退室したら再入室は認められない。

<答案用紙>

答案用紙は配付または指定されたものを使用し、書き損じたものや、白紙のものも提出する。

9. 追試験・再試験の手続きの流れ



◆卒業学年に限り、追再試の再試(前後期各1科目:必修科目及び免許・資格(教員免許状・栄養士免許証・保育士資格・管理栄養士国家試験、看護師国家試験、保健師国家試験、理学療法士国家試験、作業療法士国家試験の受験資格)の取得要件科目に限る)を実施する場合がある。最終成績発表日に手続きが必要。

◆「試験規程」は、ポータルサイトの学内リンクタブの「規程一覧」を参照。

VI. 成績評価について

1. 成績の評価・単位の認定

授業科目の成績評価は、試験成績と平常成績を総合して判定し、S, A, B, C, 不とし、C 以上を合格として当該授業科目の単位を認定します。なお、100 点満点に換算した点数の評価基準は、次のとおりとします。

ただし、当該学期学費未納者については、学費完納まで単位認定を保留します。

成績評価基準

合 格	100 点～90 点	S
	89 点～80 点	A
	79 点～70 点	B
	69 点～60 点	C
不合格	60 点未満	不
不合格 (再試験)	60 点未満	再

学生が期末筆記試験を欠席し、追試験の手続きをした場合

(追試験)

合 格	100 点～90 点	S
	89 点～80 点	A
	79 点～70 点	B
	69 点～60 点	C
不合格	60 点未満	不
欠 席		不

(再試験)

合 格	60 点以上	C
不合格	60 点未満	不
欠 席		不

単位
認定

単位
不認定



※卒業年次学生を対象とする

—再試験—

—追試験—

失 格	失
-----	---

— 受験資格喪失(原則として規定授業時間数の 2/3 以上出席していない者)

認定単位	認
------	---

— 他の大学等において修得した単位、編入学生等の認定単位

2. 成績の通知

期末試験及び追・再試験の結果は、各学期の成績発表日にポータルサイトの成績照会で各自確認してください。既修得単位科目の成績(成績の累算)も成績照会で確認できます。

3. 成績の問い合わせ

成績についての質問がある場合は、成績発表後 3 日以内(土・日・祝日除く)に学生支援センター教学支援オフィスに申し出て、「成績評価についての質問」に質問事項を記入し提出してください。

4. GPAについて

GPAとは、Grade Point Average(グレード・ポイント・アベレージ)の略で、履修登録科目の評価等に対して、それぞれにGPを与え、獲得したポイント(GP×単位数)の合計を履修登録した総単位数で除した 1 単位あたりの成績平均値のことです。GPAを知ることで、学業成績の状況を的確に判断し、自らの学修に対して主体的に自己評価することができ、その後の履修計画が適切に立てられます。

本学では、GPAを主に次の目的に利用するために導入しています。

- 1) 履修科目の安易な登録と、途中放棄の防止
- 2) GPA評価平均が下位 25%の学生に対する修学支援
- 3) 奨学金授与等における判定基準
- 4) 就職活動等における推薦者の選抜基準
- 5) 成績上位者の表彰の選抜基準
- 6) 退学勧告を行う判定基準

<GP(グレード・ポイント)>

最終成績評価(S:4、A:3、B:2、C:1、不認定:0、失格:0、認定:ー)

<不合格科目等の取り扱い>

成績評価が不合格の科目、失格となった科目のGPはすべて「0」としてGPAの算出対象となります。「認」は、GPAの算出対象外になります。

<GPAの算出式>

各科目の成績評価を成績値(GP)に換算し、科目の単位数を掛けて、合計単位数を当該期で履修登録した科目の総単位数で割ったものがGPAとなります。

$$\text{GPA} = \frac{(4 \times \text{Sの修得単位数}) + (3 \times \text{Aの修得単位数}) + (2 \times \text{Bの修得単位数}) + (1 \times \text{Cの修得単位数})}{\text{総履修登録単位数}}$$

VII. 規程

学則や各種規程は、ポータルサイトに掲載しています。

<規程一覧へのアクセス>



ポータルサイト: TOP(HOME) > 学内リンク > 規程一覧

URL: <https://gakusei.nagoya-aoi.ac.jp/kitei/kitei-index.htm>

VIII. 教務関係の用語集

<教務関係用語集へのアクセス>



ポータルサイト: TOP(HOME) > 学内リンク > 教務関係の用語集

URL: https://gakusei.nagoya-aoi.ac.jp/portal/pdf/rishuyoko/kyomu_yogo.pdf

医療科学部

1. ディプロマポリシー(学位授与の方針)

医療科学部

医療科学部のディプロマポリシーは、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体性・多様性・協働性」の3つのカテゴリで構成されます。学位授与の規程は、2学科が定める所定の単位を修得し、学士力、専門職能を身に付け、専門的職業人としての使命感や責任感が持てる者であることが重要となります。さらに、多世代にわたる対人関係力を身に付け、社会の一員として適切な行動ができている者に学位を授与します。

作業療法学科

作業療法学科では、学科の教育課程に定める単位を修め、作業療法の専門知識、技術を修得し、対象者の作業ニーズを捉えられる作業療法士を目指し、健康増進、疾病と障害の予防に貢献できる能力を備えた以下の学生に卒業を認定し、学士(作業療法学)の学位を授与します。その到達目標を「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体性・多様性・協働性」の3つのカテゴリで示します。

1. 「知識・技能」

- ・科学的根拠に基づく専門知識と技能を有し、幅広い対象者の作業に対するニーズを捉え、健康増進、疾病と障害の予防に対する作業療法を実践できること。

2. 「思考・判断・表現」

- ・高い倫理観と教養をもち、親切、優しさを持つ豊かな人間性を有していること。

3. 「主体性・多様性・協働性」

- ・人々の健康増進に貢献できるよう、自己の成長のために主体的に自己研鑽できること。
- ・保健医療福祉等の他職種と連携し得るコミュニケーションスキルや協調性を有していること。

2. カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)

医療科学部

医療科学部は、建学の精神であり学園訓である「親切」を根幹としており、教育課程では、「個々の人格を陶冶し、かつ高い教養を身に纏った力強い職能人を育成する」ことを目的としています。これを達成するため、第一に、学士力向上を目標として教養科目、外国語科目などを、健康科学部・生活環境学部・児童教育学部と可能な限り共通科目として設け、幅広い視野で物事を捉えることができる豊かな人間性を育成します。第二に、リハビリテーションの専門的職業人として、多職種協働の理解を深め、さらにチーム医療の実践力を高めるために、健康科学部と医療科学部間及び、医療科学部 2 学科間において学部学科間共通科目を設けます。第三に、専門的知識と技術を幅広く身に付けるため、学年進行に合わせて専門基礎分野科目と 2 学科それぞれの専門科目を多く設置して、知識や技術を結び付けながら学修することが可能となるように、体系的に教育課程を編成します。

作業療法学科

1. 教育課程の編成目標

ディプロマポリシーの達成に向け、幅広い視野で物事を捉え、高い倫理観、豊かな人間性を備えた保健医療福祉分野の専門職としての素養を磨き、併せて、保健医療福祉に関する十分な専門知識と技術を身に付け、多職種とも連携でき、対象者の障害予防及び健康増進に貢献できる作業療法士としての能力を育成します。

- (1) 作業療法士として必要な高い倫理観と教養、豊かな人間性を養う科目を開講します。
- (2) 幅広い対象者の作業ニーズを捉え、的確に評価し、障害予防と障害の改善を含めた健康増進に貢献できる作業療法士に必要な、科学的根拠に基づく専門的知識と技能を修得する科目を開講します。
- (3) 幅広い対象者の作業に対するニーズを捉え、的確な医療的支援ができる作業療法についての理論と実践及び学修の統合力を図る演習・実習系科目、及び研究関連の専門科目においてアクティブラーニングを取り入れて開講します。
- (4) 対象者への最善の支援に向けた多職種連携ができるようになるために、コミュニケーションスキルと協調性を身に付けることは重要であるため、学生間の協力関係のもとで展開される演習系科目、実技系科目を開講します。

2. 教育課程の編成と特色

(1) セメスター制と GPA

セメスター制を導入し、一年を前期と後期に分け、半期ごとに完結する授業を行います。これにより学生は半期ごとに単位履修状況を見直すことが可能になります。また、GPA(Grade Point Average)を活用して、教員による適切な学修支援を実施します。

(2) 全学共通科目の設定と充実

大学での学びの導入として、初年次セミナーを 1 年次において履修し、大学生活における学修の目標を見定め、専門科目の履修目的の確認やモチベーションの高揚を目指します。また、「学士力」育成を目指し、人間形成、一般教育、外国語、情報・表現などのカテゴリーに分けた全学共通科目を可能な限り選択できるよう設置します。

(3) 学部学科間共通科目の設定

健康栄養学科と看護学科を有する健康科学部と連携し、多職種連携を見据えた理学療法士・作業療法士の養成教育が可能となる科目を配置します。また、理学療法学科と作業療法学科間では、健康増進とリハビリテーションに関連する科目を開講します。

(4) 専門科目群

作業療法士養成課程として、知識と技術の一体的な専門教育の実践を可能にするために以下の専門科目カテゴリーに区分するとともに、必修・選択の割合を適切に配置して系統的に編成します。

1) 「専門基礎分野科目」(必修 25 科目、選択 1 科目)

内訳: 人体の構造と機能及び心身の発達(必修 10 科目)・疾病と障害の成り立ちと回復促進(必修 11 科目)・保健医療福祉とリハビリテーション(必修 4 科目、選択 1 科目)

2) 「作業療法専門分野科目」(必修 37 科目、選択 3 科目)

内訳: 基礎作業療法学(必修 6 科目)・作業療法管理学(必修 1 科目)・作業療法評価学(必修 7 科目)・作業療法治療学(必修 15 科目、選択 3 科目)・地域作業療法学(必修 3 科目)・臨床実習(必修 5 科目)

(5) 学修成果測定

- 1) ルーブリックによる学修成果の可視化を図ります。
- 2) 学修(e)ポートフォリオによる学修成果の蓄積を行います。
- 3) 年次ごとに、必修科目の修得等の進級基準を設けます。
- 4) 作業療法士が必要とする学修成果や学修達成度、専門知識・技能に関する「卒業研究(発表・論文)」の講評を行います。

(6) 学修環境

- 1) 作業療法士の国家試験受験資格取得に必要な科目配置を行います。
- 2) クラス担任を中心に学科教員は授業担当者と緊密な連絡と情報交換によりきめ細やかな指導を行います。
- 3) 授業以外にも作業療法技術のきめ細やかな指導を行います。

3. 教育課程

全学共通科目

■医療科学部開講科目

授 業 科 目		単位数		授 業 形 態	配 当 学 年								授 業 時 間 数	備 考
		必修	選択		1年		2年		3年		4年			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
人 間 科 目 形 成	建学のこころ	1		講義									－	
	ジェンダー論		2	講義									2	
	キャリア入門		2	講義									2	
一 般 教 育 科 目	哲学の方法		2	講義									2	
	心のしくみ		2	講義									2	
	文学の表現と鑑賞		2	講義									2	
	歴史に学ぶ		2	講義									2	
	国際事情		2	講義									2	
	日本国憲法		2	講義									2	
	くらしの経済		2	講義									2	
	生活と地理		2	講義									2	
	数学の世界		2	講義									2	
	一般化学		2	講義									2	
	生命のしくみ		2	講義									2	
	生活の物理		2	講義									2	
	地球環境と人間		2	講義									2	
	初年次セミナー	2		講義									2	
芸 術 科 目	音楽		1	演習									2	
	美術		1	演習									2	
	書道		1	演習									2	
外 国 語 科 目	Basic English 1	1		演習									2	
	Basic English 2	1		演習									2	
	Advanced English 1		1	演習									2	
	Advanced English 2		1	演習									2	
	総合英語A－1	1		演習									2	
	総合英語A－2	1		演習									2	
	総合英語B－1		1	演習									2	
	総合英語B－2		1	演習									2	
	初級フランス語1		1	演習									2	「初級フランス語2」または「初級中国語2」は、「初級フランス語1」または「初級中国語1」を履修していないと履修できません。また「初級フランス語1」または「初級中国語1」が「失格」または「不合格」になった場合は、「初級フランス語2」または「初級中国語2」は履修できません。
	初級フランス語2		1	演習									2	
	中級フランス語		1	演習									2	
	初級中国語1		1	演習									2	
	初級中国語2		1	演習									2	
中級中国語		1	演習									2		
表 現 科 目	情報処理演習1		1	演習									2	
	情報処理演習2		1	演習									2	
	日本語表現法1		1	演習									2	
	日本語表現法2		1	演習									2	
健 康 科 目	健康科学		2	講義									2	
	スポーツ1		1	実技									2	
	スポーツ2		1	実技									2	

(注) 開講学年・時期は各年度の授業計画により変更する場合がある。

作業療法学科

(1) 教育目的について

多様化する社会に貢献し、高い倫理観と教養、コミュニケーションスキルや協調性、障害を負った人々に対する生活の再構築に向けた支援を実践できる能力を身に付けた作業療法士の育成を目的とします。

(2) 授業科目について

医療科学部の教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)はディプロマポリシーの達成に向け、全学共通科目、学部学科間共通科目、専門基礎分野科目及び専門分野科目で学ぶ知識や技術を結び付けながら学べるように各科目を学年進行に合わせて配置しています。

作業療法学科においては、作業療法を遂行する上で必要となる専門的な知識と技術の修得のための専門科目を多く設置しています。また、健康科学部と連携した看護や栄養に関する科目などを配置し、特色ある教育課程を編成しています。

【全学共通科目】(必修 6 科目、選択 35 科目:講義 18 科目、演習 21 科目、実技 2 科目)

全学共通科目については、幅広く学び、高い教養を持ち、作業療法士として、対象者、その家族及び周囲の人々に対して敬意と倫理観を持って接することができる能力を身に付けるための科目を配置しています。

人間形成科目では、「親切」の信条と「建学の精神」を理解して医療専門職を目指す学生に向け「建学のこころ」を必修科目とし、選択科目は 2 科目を配置します。一般教育科目では、高等学校からの円滑な移行と人格的な成長に向け、大学での学びの意義や学びに必要なアカデミックスキルを必修科目「初年次セミナー」で修得します。その他、一般教育科目として、13 科目を配置し、芸術科目は選択 3 科目を配置します。外国語科目では、「Basic English 1」「Basic English 2」「総合英語 A-1」「総合英語 A-2」、その他選択科目 10 科目を置いて、国際社会にも通用するような豊かなコミュニケーション能力を涵養することに加え、英語を通じた広範な視野と多様な価値観を学び取る力を育成します。情報・表現科目には 4 科目、体育・健康科目には 3 科目をそれぞれ選択科目で配置します。

【学部学科間共通科目】(必修 5 科目、選択 8 科目:講義 12 科目、演習 1 科目)

1) 学部間共通科目(選択 7 科目:講義 7 科目)

健康栄養学科と看護学科を有する健康科学部と連携し、栄養面のフレイル対策、健康と食、口腔機能と疾病予防、口腔健康維持のための口腔ケアの重要性等を学べる科目として「口腔健康管理学」「ライフステージ栄養学 1」を配置し、がんや終末期の支援を学べる科目として「緩和ケア論」を配置します。その他、「災害看護論」も配置し、これらの学びによって多職種連携を見据えた学部間連携を図ります。また、人体構造の基礎、科学的思考及び分析力を培うために、「基礎生物学」「情報処理概論」「基礎統計処理」を配置します。

2) 学科間共通科目(必修 5 科目、選択 1 科目:講義 5 科目、演習 1 科目)

「基礎ゼミナール」を置いて大学での学びの導入として全学共通科目「初年次セミナー」で学修したことを活用して、グループワークを行うことにより、主体的・対話的な学修習慣を修得します。対象者の障害予防及び健康増進に貢献し得る作業療法士の育成に向けて「健康増進とリハビリテーション」を配置します。女性特有の健康的課題を学ぶ科目として「女性の健康」を配置します。また、リハビリテーションにおける医学的基礎知識を修得するため「リハビリテーション医学」を配置します。将来、臨床での実習生の指導、教員や研究者を目指す場合の基礎を「教育学」で修得し、その他選択 1 科目を配置します。

【専門基礎分野科目】(必修 25 科目、選択 1 科目:講義 21 科目、演習 3 科目、実習 2 科目)

専門基礎分野科目である人体の構造と機能及び心身の発達に関する科目群では、「解剖学Ⅰ」「解剖学Ⅱ」「解剖学実習」及び「生理学Ⅰ」「生理学Ⅱ」「生理学実習」「基礎運動学」「基礎運動学演習」等を配置し、人体の構造と機能の正常状態を学修します。疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進の科目群では、その対象となる基本的疾病の原因や診断基準と治療に関しては「内科学」「整形外科学」「神経内科学」「小児科学」「老年医学」「精神医学」等を配置します。また、救急救命や薬理学、診断と治療に関わる各種検査所見等については「臨床医学概論」「臨床検査診断概論」を配置し、「災害医療」で災害発生時の基本的医療について学修します。保健医療福祉とリハビリテーションの理念の科目群は、生命と人間の尊厳を尊重する全人的視点を基盤とするリハビリテーション、多職種連携の基礎、地域住民全体の健康、地域住民に対する多職種による包括的支援を理解するために、「生命倫理学」「リハビリテーション概論」「チーム医療連携論」「保健医療福祉制度」を配置します。その他に選択「公衆衛生学」1 科目を配置します。

【作業療法専門分野科目】(必修 37 科目、選択 3 科目:講義 18 科目、演習 17 科目、実習 5 科目)

1) 基礎作業療法学(必修 6 科目:講義 3 科目、演習 3 科目)

作業療法の歴史的背景、作業療法士が現在求められている多様な役割と作業療法実践の理論や作業活動応用については、「作業療法学概論」「基礎作業療法学」「基礎作業療法学演習」で修得します。また、作業療法の科学的根拠を深める科学的思考や生涯の自己研鑽の基礎となる「研究法概論」「研究法演習」「卒業研究」を配置します。

2) 作業療法管理学(必修 1 科目:講義 1 科目)

作業療法実践のリスク管理と組織運営や職員指導の理論を「作業療法管理学」で修得します。

3) 作業療法評価学(必修 7 科目:講義 1 科目、演習 6 科目)

障害予防及び健康増進に向けた作業療法実践に必要な評価の意義と具体的方法としての観察、身体機能面や生活機能面、心理社会面等、ICF を包含する内容について、「作業療法評価学」「作業療法評価学演習Ⅰ」「作業療法評価学演習Ⅱ」「作業療法評価学演習Ⅲ」で修得します。「作業療法動作分析学演習」では人間の生活行為・動作の理解を深めます。臨床実習前に「作業療法学総合演習Ⅰ」で ICF を用いた生活障害に対する評価の思考プロセスを修得します。また、「作業療法学総合演習Ⅱ」で事例基盤型学習を用いて検査測定、統合と解釈と治療プログラムの立案を模擬的に実施し、一連のプロセスを修得します。

4) 作業療法治療学(必修 15 科目、選択 3 科目:講義 11 科目、演習 7 科目)

障害予防及び健康増進への支援に向けて、主要な対象疾患・障害に応じた作業療法を実践するために、作業療法評価学と関連付けながら必要な知識と技術を修得します。将来、作業療法士として担当する機会が多い疾患ごとに、身体障害系では、脳血管障害と運動器障害、内部障害について「身体障害作業療法学Ⅰ」「身体障害作業療法学Ⅱ」「身体障害作業療法学演習」「義肢装具学」「義肢装具学演習」「作業療法学特論Ⅲ(内部疾患)」を配置します。また、精神障害及び発達障害については「精神障害作業療法学」「精神障害作業療法学演習」「発達障害作業療法学」「発達障害作業療法学演習」を配置します。共通する障害である高次脳機能障害や認知症に関わる知識と技術の理解及び応用は「高次脳機能障害作業療法学」「高次脳機能障害作業療法学演習」「老年期障害作業療法」で修得します。また、対象者の生活自立とその支援に関する知識と技術、環境調整を修得するために「日常生活活動学」「日常生活活動学演習」を配置します。「作業療法学セミナー」にて 1 年次から 4 年次の学修を統合します。また、昨今のさまざまな問題に多様な対応ができるよう「作業療法学特論Ⅰ(学校・仕事)・Ⅱ(生活・環境)」を配置します。

5) 地域作業療法学(必修3科目:講義2科目、演習1科目)

地域住民を対象とした生活支援と社会参加促進や必要に応じた教育と就労支援に関わる知識や環境調整等を修得します。また、障害予防及び健康増進による健康寿命延伸に向けた介護予防の観点から地域在住高齢者対象の健康関連事業の企画と運営を担うことによって、地域包括ケアシステムにおける地域貢献できる能力を養うために「地域作業療法学」「地域作業療法演習」「予防的作業療法学」を配置します。

6) 臨床実習(必修5科目:実習5科目)

臨床実習では一連の作業療法過程を段階的に学修できるように、1年次から4年次に「臨床実習Ⅰ(見学実習)」「臨床実習Ⅱ(地域実習)」「臨床実習Ⅲ(評価実習)」「臨床実習Ⅳ(総合実習)」「臨床実習Ⅴ(総合実習)」を配置します。全臨床実習を通じて作業療法士に必要な倫理観とチーム医療の一員として他職種との連携のあり方を修得します。そして「臨床実習Ⅲ(評価実習)」「臨床実習Ⅳ(総合実習)」「臨床実習Ⅴ(総合実習)」では、臨床実習指導者の指導の下で見学・模倣・独立実施の過程を踏まえて対象者に応じた作業療法を実践できる基盤を構築します。チーム医療での作業療法士が担う役割を現場で見学、学修できる機会としてカンファレンスへの適宜聴講の機会を設定します。

(3) 進級要件について

進級時期	進 級 要 件
1年生から2年生	1年生後期までに配当されている学部学科間共通科目、専門基礎分野科目、作業療法学科専門分野の必修科目をすべて修得していること。
2年生から3年生	2年生後期までに配当されているすべての必修科目を修得していること。
3年生から4年生	臨床実習Ⅳ、臨床実習Ⅴ、卒業研究、作業療法学セミナーを除く、卒業に必要な必修科目と選択科目の単位をすべて修得していること。

留年した場合は、留まった学年に配当されている進級に必要な必修科目を再履修します。なお、既に修得した単位は卒業まで有効であり再履修する必要はありません。また、留まった学年までに配当されている科目を履修することができます。

(4) 教育課程について

作業療法学科 専門科目

授 業 科 目			単位数		授 業 形 態	配 当 学 年								授 業 時 間 数	備 考
			必 修	選 択		1年		2年		3年		4年			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
学部学科間共通科目	学部間共通科目	基礎生物学		2	講義									2	
		情報処理概論		2	講義									2	
		基礎統計処理		2	講義									2	
		口腔健康管理学		2	講義									2	
		ライフステージ栄養学1		1	講義									1	
		緩和ケア論		1	講義									1	
		災害看護論		1	講義									1	
	学科間共通科目	基礎ゼミナール	1		演習									2	
		リハビリテーション医学	1		講義									1	
		健康増進とリハビリテーション	2		講義									2	
		女性の健康	1		講義									1	
		教育学	2		講義									2	
		教育方法論		2	講義									2	
専門基礎分野科目	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学Ⅰ	2		講義									2	
		解剖学Ⅱ	1		演習									2	
		解剖学実習	1		実習									3	
		生理学Ⅰ	2		講義									2	
		生理学Ⅱ	1		演習									2	
		生理学実習	1		実習									3	
		人間発達学	2		講義									2	
		基礎運動学	2		講義									2	
		基礎運動学演習	1		演習									2	
		臨床心理学	1		講義									1	
	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	臨床医学概論	1		講義									1	
		病理・感染学	2		講義									2	
		整形外科学	2		講義									2	
		神経内科学	2		講義									2	
		老年医学	1		講義									1	
		精神医学	2		講義									2	
		内科学	2		講義									2	
		小児科学	1		講義									1	
		臨床検査診断概論	1		講義									1	
		臨床栄養学Ⅰ	1		講義									1	
	災害医療	1		講義									1		
	保健医療福祉と シヨンの理念	リハビリテーション概論	1		講義									1	
		生命倫理学	1		講義									1	
		公衆衛生学		1	講義									1	
		チーム医療連携論	1		講義									1	
		保健医療福祉制度	1		講義									1	
専門分野科目	基礎作業療法学	作業療法学概論	2		講義								2		
		基礎作業療法学	1		講義								1		
		基礎作業療法学演習	1		演習								2		
		研究法概論	1		講義								1		
		研究法演習	1		演習								2		
		卒業研究	2		演習								－		

授 業 科 目			単位数		授 業 形 態	配 当 学 年								授 業 時 間 数	備 考
			必 修	選 択		1年		2年		3年		4年			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
作 業 療 法 専 門 分 野 科 目	作業療法 管理学	作業療法管理学	2		講義									2	
	作業 療法 評価 学	作業療法評価学	1		講義									1	
		作業療法評価学演習Ⅰ	1		演習									2	
		作業療法評価学演習Ⅱ	1		演習									2	
		作業療法評価学演習Ⅲ	1		演習									2	
		作業療法動作分析学演習	1		演習									2	
		作業療法学総合演習Ⅰ	1		演習									2	
		作業療法学総合演習Ⅱ	1		演習									2	
		作業 療法 治療 学	身体障害作業療法学Ⅰ	2		講義									2
	身体障害作業療法学Ⅱ		1		講義									1	
	身体障害作業療法学演習		1		演習									2	
	義肢装具学		1		講義									1	
	義肢装具学演習		1		演習									2	
	精神障害作業療法学		2		講義									2	
	精神障害作業療法学演習		1		演習									2	
	発達障害作業療法学		2		講義									2	
	発達障害作業療法学演習		1		演習									2	
	老年期作業療法学		2		講義									2	
	高次脳機能障害作業療法学		2		講義									2	
	高次脳機能障害作業療法学演習		1		演習									2	
	日常生活活動学		1		講義									1	
	日常生活活動学演習		1		演習									2	
	作業療法学セミナー		1		演習									2	
	作業療法治療学特論Ⅰ(学校・仕事)			1	講義									1	
	作業療法治療学特論Ⅱ(生活・環境)			1	講義									1	
	作業療法治療学特論Ⅲ(内部疾患)			1	講義									1	
	地域 作業 療法 学	地域作業療法学	2		講義									2	
		地域作業療法学演習	1		演習									2	
		予防の作業療法学	1		講義									1	
	臨床 実習	臨床実習Ⅰ(見学実習)	1		実習									-	
		臨床実習Ⅱ(地域実習)	2		実習									-	
		臨床実習Ⅲ(評価実習)	6		実習									-	
		臨床実習Ⅳ(総合実習)	8		実習									-	
		臨床実習Ⅴ(総合実習)	8		実習									-	

(注)「作業療法学セミナー」は、「臨床実習Ⅳ(総合実習)」・「臨床実習Ⅴ(総合実習)」を履修していないと履修できません。

〈作業療法学科〉カリキュラムマップ

目標のキーワード

到達目標(学修成果目標)

DP:ディプロマポリシー

①知識・技能	①DP1 科学的根拠に基づく専門知識と技能を有し、幅広い対象者の作業に対するニーズを捉え、健康増進、疾病と障害の予防に対する作業療法を実践できること。
②思考・判断・表現	②DP2 高い倫理観と教養をもち、親切、優しさを持つ豊かな人間性を有していること。
③主体性・多様性・協働性	③DP3 人々の健康増進に貢献できるよう、自己の成長のために主体的に自己研鑽できること。 保健医療福祉等の他職種と連携し得るコミュニケーションスキルや協調性を有していること。

科目別目標

特に重点的に育成する能力=◎、重点的に育成する能力=○

学年	期	ナンバリング	科目名	資格コード	①	②	③
1	前期	UA0 0 00 L 1 01 Z	建学のこころ			◎	○
		UA0 0 37 L 2 14 L	初年次セミナー			◎	○
		MB0 0 54 L a 11 L	情報処理概論		○	◎	
		MB0 0 49 L c 11 L	解剖学Ⅰ	R2	◎	○	
		MB0 0 49 L c 21 L	生理学Ⅰ	R2	◎	○	
		UA0 0 83 E 4 05 L	総合英語A-1	H1N2N3T1T3T4T5T6T7		◎	
		UA0 0 83 E 4 01 L	Basic English 1	N2N3T1T3T4T5T6T7		◎	
		UA0 0 81 E 5 03 L	日本語表現法1	T4		◎	
		UA0 0 54 E 5 01 L	情報処理演習1	H1J1J2N2N3T1T3T4T5T6T7		◎	
		MO0 0 49 L f 11 L	作業療法学概論	R2	◎		○
1・2		UA0 0 33 L 2 07 L	くらしの経済			◎	
		UA0 0 29 L 2 08 L	生活と地理			◎	
		UA0 0 49 L 6 01 L	健康科学	H1	○	◎	
		UA0 0 33 L 2 05 L	国際事情			◎	
		UA0 0 78 P 6 02 L	スポーツ1	H1N2N3T1T3T4T5T6T7		◎	
		UA0 0 43 L 2 10 L	一般化学			◎	
		UA0 0 85 E 4 09 L	初級フランス語1			◎	
		UA0 0 46 L 2 11 L	生命のしくみ		○	◎	
1	後期	UA0 0 82 E 4 12 L	初級中国語1			◎	
		UA0 0 54 E 5 02 L	情報処理演習2	H1J1J2N2N3T1T3T4T5T6T7		◎	
		MB0 0 41 L a 12 L	基礎統計処理		○	◎	
		MB0 0 46 L a 01 L	基礎生物学		○	◎	
		UA0 0 83 E 4 06 L	総合英語A-2	H1N2N3T1T3T4T5T6T7		◎	
		UA0 0 83 E 4 02 L	Basic English 2	N2N3T1T3T4T5T6T7		◎	
		UA0 0 81 E 5 04 L	日本語表現法2	T4		◎	
		MB0 0 49 L d 01 L	臨床医学概論	R2	◎	○	
		MB0 0 00 E b 01 L	基礎ゼミナール	R2	○	◎	○
		MB0 0 49 L e 01 L	生命倫理学	R2	◎	◎	○
		MB0 0 14 L c 02 L	臨床心理学	R2	◎	○	
		MB0 0 49 L a 21 L	口腔健康管理学		◎	◎	
		MB0 0 49 E c 12 L	解剖学Ⅱ	R2	◎	○	
		MB0 0 49 E c 22 L	生理学Ⅱ	R2	◎	○	
		MB0 0 49 L c 01 L	人間発達学	R2	◎	○	
		MB0 0 49 L c 31 L	基礎運動学	R2	○	◎	○
		MB0 0 49 L d 02 L	病理・感染学	R2	◎	○	
		MB0 0 49 L e 02 L	リハビリテーション概論	R2	◎	◎	○
		MO0 0 49 L f 12 L	基礎作業療法学	R2	○	◎	
		MO0 0 49 T k 11 H	臨床実習Ⅰ(見学実習)	R2	◎	○	◎

学年	期	ナンバリング	科目名	資格コード	①	②	③
1・2	後期	UA0 0 14 L 2 02 L	心のしくみ			◎	
		UA0 0 78 P 6 03 L	スポーツ2	H1N2N3T1T3T4T5T6T7		◎	
		UA0 0 32 L 2 06 L	日本国憲法	N2N3T1T3T4T5T6T7		◎	
		UA0 0 85 E 4 10 L	初級フランス語2			◎	
		UA0 0 82 E 4 13 L	初級中国語2			◎	
		UA0 0 42 L 2 12 L	生活の物理			◎	
		UA0 0 36 L 1 02 M	ジェンダー論			◎	
		UA0 0 45 L 2 13 L	地球環境と人間			◎	
		UA0 0 36 L 1 03 L	キャリア入門			◎	
2	前期	UA0 0 83 E 4 03 M	Advanced English 1			◎	
		UA0 0 83 E 4 07 M	総合英語B-1			◎	
		MB0 0 49 T c 13 H	解剖学実習	R2	◎	○	
		MB0 0 49 T c 23 H	生理学実習	R2	◎	○	
		MB0 0 49 E c 32 M	基礎運動学演習	R2	◎		○
		MB0 0 37 L b 11 L	教育学	R2	○	◎	○
		MB0 0 49 L b 02 L	リハビリテーション医学	R2	◎	◎	○
		MB0 0 49 L d 03 L	老年医学	R2	◎	○	
		MB0 0 49 L d 04 L	整形外科学	R2	◎	○	
		MB0 0 49 L d 05 L	神経内科学	R2	◎	○	
		MB0 0 49 L e 03 L	公衆衛生学		◎	◎	○
		MB0 0 49 L d 06 L	精神医学	R2	◎	○	
		MO0 0 49 L h 01 L	作業療法評価学	R2	◎		◎
		MO0 0 49 E h 02 M	作業療法評価学演習Ⅰ	R2	◎		◎
		MO0 0 49 E h 03 M	作業療法評価学演習Ⅱ	R2	◎		◎
		MO0 0 49 L i 11 L	日常生活活動学	R2	◎		◎
		MO0 0 49 L j 11 L	地域作業療法学	R2	◎		◎
2・3		UA0 0 76 E 3 01 L	音楽			◎	
		UA0 0 11 L 2 01 L	哲学の方法			◎	
		UA0 0 91 L 2 03 L	文学の表現と鑑賞			◎	
		UA0 0 85 E 4 11 M	中級フランス語			◎	
		UA0 0 82 E 4 14 M	中級中国語			◎	
2	後期	UA0 0 83 E 4 04 M	Advanced English 2			◎	
		UA0 0 83 E 4 08 M	総合英語B-2			◎	
		MB0 0 49 L a 22 L	ライフステージ栄養学Ⅰ		◎	◎	
		MB0 0 49 L d 07 L	内科学	R2	◎	○	
		MB0 0 49 L d 08 L	小児科学	R2	◎	○	
		MO0 0 49 E h 04 M	作業療法評価学演習Ⅲ	R2	◎		◎
		MO0 0 49 E h 05 M	作業療法動作分析学演習	R2	◎		◎
		MO0 0 49 L i 21 L	精神障害作業療法学	R2	◎		◎
		MO0 0 49 L i 31 L	発達障害作業療法学	R2	◎		◎
		MO0 0 49 L i 01 L	老年期作業療法学	R2	◎		◎
		MO0 0 49 E i 12 M	日常生活活動学演習	R2	◎		◎
		MO0 0 49 L i 51 L	作業療法治療学特論Ⅰ(学校・仕事)		◎		◎
		MO0 0 49 E j 12 M	地域作業療法学演習	R2	◎		◎
		MO0 0 49 L i 41 L	高次脳機能障害作業療法学	R2	◎		○
		MO0 0 49 T k 12 H	臨床実習Ⅱ(地域実習)	R2	◎	○	◎
2・3		UA0 0 72 E 3 03 L	書道			◎	
		UA0 0 72 E 3 02 L	美術			◎	
		UA0 0 21 L 2 04 L	歴史に学ぶ			◎	
		UA0 0 41 L 2 09 L	数学の世界			◎	

学年	期	ナンバリング	科目名	資格コード	①	②	③
3	前期	MB0 0 49 L a 02 L	緩和ケア論		◎	○	
		MB0 0 49 L e 04 L	チーム医療連携論	R2	◎	○	○
		MB0 0 49 L d 09 L	臨床検査診断概論	R2	◎	○	
		MO0 0 49 L f 21 L	研究法概論	R2	◎		○
		MO0 0 49 L g 01 L	作業療法管理学	R2	◎		◎
		MO0 0 49 L i 61 L	身体障害作業療法学Ⅰ	R2	◎		○
		MO0 0 49 L i 02 L	身体障害作業療法学Ⅱ	R2	◎		○
		MO0 0 49 L i 71 L	義肢装具学	R2	○	◎	○
		MO0 0 49 E i 22 M	精神障害作業療法学演習	R2	◎		○
		MO0 0 49 E i 32 M	発達障害作業療法学演習	R2	◎		○
		MO0 0 49 L i 52 L	作業療法治療学特論Ⅱ(生活・環境)		◎		○
		MO0 0 49 E h 11 M	作業療法学総合演習Ⅰ	R2	◎		◎
	後期	MB0 0 49 L d 11 L	臨床栄養学Ⅰ	R2	◎	○	
		MB0 0 49 L a 03 L	災害看護論		◎	○	○
		MB0 0 49 L b 03 L	健康増進とリハビリテーション	R2	◎	○	○
		MB0 0 49 L d 21 L	災害医療	R2	◎	○	○
		MB0 0 49 L b 04 L	女性の健康	R2	◎	○	
		MB0 0 49 L e 05 L	保健医療福祉制度	R2	◎	○	○
		MO0 0 49 E f 22 M	研究法演習	R2	◎	○	◎
		MO0 0 49 E h 12 M	作業療法学総合演習Ⅱ	R2	◎		◎
		MO0 0 49 E i 62 M	身体障害作業療法学演習	R2	◎		◎
		MO0 0 49 E i 72 M	義肢装具学演習	R2	○	◎	○
		MO0 0 49 E i 42 M	高次脳機能障害作業療法学演習	R2	◎		◎
		MO0 0 49 L j 01 L	予防的作業療法学	R2	◎		◎
		MO0 0 49 E f 01 M	基礎作業療法学演習	R2	◎		◎
		MO0 0 49 L i 53 L	作業療法治療学特論Ⅲ(内部疾患)		◎		○
		MO0 0 49 T k 13 H	臨床実習Ⅲ(評価実習)	R2	◎	○	◎
4	前期	MO0 0 49 T k 14 H	臨床実習Ⅳ(総合実習)	R2	◎	○	◎
		MO0 0 49 T k 15 H	臨床実習Ⅴ(総合実習)	R2	◎	○	◎
	後期	MO0 0 49 E i 03 M	作業療法学セミナー	R2	◎		○
		MO0 0 00 E f 23 H	卒業研究	R2	◎		◎
		MB0 0 37 L b 12 L	教育方法論		○	◎	○

(1) *印の科目はいずれかの学年で履修できる。(2)科目名に記載の①②③は①DP1、②DP2、③DP3を示す。(3)科目間の一は履修順序を示す。(逆方向の履修は控える)(4)全学共通科目で、複数の年次に開講される場合、推選の履修年次を本字で示した。

(1) *印の科目はいずれかの学年で履修できる。(2)科目名に記載の①②③は①DP1, ②DP2, ③DP3を示す。

幅広く深い教育を持ち、対象者、その家族及び周囲の人々に對して敬意と倫理觀を持つて渡ることが出来る能力を身に付ける。

高等学校からの円滑な移行と人格的な成長に向け、大学での学びに必要なアカデミックスキルを身に付ける。

国際社会と通ずるような移動可能なコミュニケーション能力を涵養することに加へ、英語を通じて広範な視野と多様な価値観を身に付ける。

38

専門基礎分野科目				作業療法専門分野科目			
疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の理解	①②臨床医学概論 ①②病理・感染学	①②内科学 ①②小児科学	①②臨床検査診断概論 ①②③災害医療	基礎作業学 ①③作業療法概論	①③作業療法概論	①③作業療法概論	疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶとともに、リハビリテーション医学を始め、整形外科、神経学、内科学といった臨床医学を理解し、医療に携わる専門職種として必須の知識を身に付ける。 自然災害と生活・健康の関連についての基礎的知識を修得する。
	①②③生命倫理学 ①②③リハビリテーション概論	①②③公衆衛生学	①②③チーム医療連携概論				社会環境や社会制度の基本的知識を習得するとともに、作業療法士の役割を理解して社会と作業療法との関係についても修得する。 対象者のニーズに応じた作業療法の展開に役立てられるように、社会構造や様々な生活様式を理解するとともに、人々の健康に及ぼす社会や環境要因についても修得する。 保健、医療、福祉、介護などに関する社会システムや制度の基本的知識を修得する。
基礎作業学 作業療法管理 作業学	①③作業療法概論		①②③保健医療福祉制度	①③研究法概論 ①③基礎作業療法学演習	①③卒業研究	①③卒業研究	作業療法の定義と歴史的背景を理解しこれら学ぶが作業療法を理解する。また、作業療法士が現在求められている多様な役割と作業療法実践に必要な知識を修得するために、作業療法理論や作業活動の治療的応用及び作業療法研究の必要性を理解し科学的根拠に基づいた作業療法実践の基礎を修得する。
	①③作業療法概論		①③研究法概論				作業療法実践の基礎となる評価の意義とボトムアップ・アプローチやトップダウン・アプローチそれぞれに必要な観察、身体機能と心理社会機能や生活機能、発達機能の各評価手法を習得し、その結果の解釈について学ぶ。 評価における医療情報等の入手、検査・測定の実施、問題点の抽出、プログラムの立案という一連の過程を理解し、作業療法へと展開できるような評価の知識と技術を身に付ける。
作業療法評価学	①③作業療法評価学 ①③作業療法評価学演習 I ①③作業療法評価学演習 II ①③作業療法評価学演習 III ①③作業療法評価学演習 IV ①③作業療法評価学演習 V	①③作業療法評価学 ①③作業療法評価学演習 I ①③作業療法評価学演習 II ①③作業療法評価学演習 III ①③作業療法評価学演習 IV ①③作業療法評価学演習 V	①③研究法概論 ①③基礎作業療法学演習	①③研究法概論 ①③基礎作業療法学演習	①③卒業研究	①③卒業研究	作業療法の定義と歴史的背景を理解しこれら学ぶが作業療法を理解する。また、作業療法士が現在求められている多様な役割と作業療法実践に必要な知識を修得するために、作業療法理論や作業活動の治療的応用及び作業療法研究の必要性を理解し科学的根拠に基づいた作業療法実践の基礎を修得する。
	①③作業療法評価学 ①③作業療法評価学演習 I ①③作業療法評価学演習 II ①③作業療法評価学演習 III ①③作業療法評価学演習 IV ①③作業療法評価学演習 V	①③作業療法評価学 ①③作業療法評価学演習 I ①③作業療法評価学演習 II ①③作業療法評価学演習 III ①③作業療法評価学演習 IV ①③作業療法評価学演習 V	①③研究法概論 ①③基礎作業療法学演習				作業療法の定義と歴史的背景を理解しこれら学ぶが作業療法を理解する。また、作業療法士が現在求められている多様な役割と作業療法実践に必要な知識を修得するために、作業療法理論や作業活動の治療的応用及び作業療法研究の必要性を理解し科学的根拠に基づいた作業療法実践の基礎を修得する。
作業療法治療学	①③日常生活活動学 ①③日常生活活動学演習 I ①③日常生活活動学演習 II ①③日常生活活動学演習 III ①③日常生活活動学演習 IV ①③日常生活活動学演習 V	①③日常生活活動学 ①③日常生活活動学演習 I ①③日常生活活動学演習 II ①③日常生活活動学演習 III ①③日常生活活動学演習 IV ①③日常生活活動学演習 V	①③研究法概論 ①③基礎作業療法学演習	①③研究法概論 ①③基礎作業療法学演習	①③卒業研究	①③卒業研究	作業療法の定義と歴史的背景を理解しこれら学ぶが作業療法を理解する。また、作業療法士が現在求められている多様な役割と作業療法実践に必要な知識を修得するために、作業療法理論や作業活動の治療的応用及び作業療法研究の必要性を理解し科学的根拠に基づいた作業療法実践の基礎を修得する。
	①③日常生活活動学 ①③日常生活活動学演習 I ①③日常生活活動学演習 II ①③日常生活活動学演習 III ①③日常生活活動学演習 IV ①③日常生活活動学演習 V	①③日常生活活動学 ①③日常生活活動学演習 I ①③日常生活活動学演習 II ①③日常生活活動学演習 III ①③日常生活活動学演習 IV ①③日常生活活動学演習 V	①③研究法概論 ①③基礎作業療法学演習				作業療法の定義と歴史的背景を理解しこれら学ぶが作業療法を理解する。また、作業療法士が現在求められている多様な役割と作業療法実践に必要な知識を修得するために、作業療法理論や作業活動の治療的応用及び作業療法研究の必要性を理解し科学的根拠に基づいた作業療法実践の基礎を修得する。
地域作業療法学	①③地域作業療法学 ①③地域作業療法学演習 I ①③地域作業療法学演習 II ①③地域作業療法学演習 III ①③地域作業療法学演習 IV ①③地域作業療法学演習 V	①③地域作業療法学 ①③地域作業療法学演習 I ①③地域作業療法学演習 II ①③地域作業療法学演習 III ①③地域作業療法学演習 IV ①③地域作業療法学演習 V	①③研究法概論 ①③基礎作業療法学演習	①③研究法概論 ①③基礎作業療法学演習	①③卒業研究	①③卒業研究	作業療法の定義と歴史的背景を理解しこれら学ぶが作業療法を理解する。また、作業療法士が現在求められている多様な役割と作業療法実践に必要な知識を修得するために、作業療法理論や作業活動の治療的応用及び作業療法研究の必要性を理解し科学的根拠に基づいた作業療法実践の基礎を修得する。
	①③地域作業療法学 ①③地域作業療法学演習 I ①③地域作業療法学演習 II ①③地域作業療法学演習 III ①③地域作業療法学演習 IV ①③地域作業療法学演習 V	①③地域作業療法学 ①③地域作業療法学演習 I ①③地域作業療法学演習 II ①③地域作業療法学演習 III ①③地域作業療法学演習 IV ①③地域作業療法学演習 V	①③研究法概論 ①③基礎作業療法学演習				作業療法の定義と歴史的背景を理解しこれら学ぶが作業療法を理解する。また、作業療法士が現在求められている多様な役割と作業療法実践に必要な知識を修得するために、作業療法理論や作業活動の治療的応用及び作業療法研究の必要性を理解し科学的根拠に基づいた作業療法実践の基礎を修得する。
臨床実習	①③臨床実習 I ①③臨床実習 II ①③臨床実習 III ①③臨床実習 IV ①③臨床実習 V	①③臨床実習 I ①③臨床実習 II ①③臨床実習 III ①③臨床実習 IV ①③臨床実習 V	①③研究法概論 ①③基礎作業療法学演習	①③研究法概論 ①③基礎作業療法学演習	①③卒業研究	①③卒業研究	作業療法の定義と歴史的背景を理解しこれら学ぶが作業療法を理解する。また、作業療法士が現在求められている多様な役割と作業療法実践に必要な知識を修得するために、作業療法理論や作業活動の治療的応用及び作業療法研究の必要性を理解し科学的根拠に基づいた作業療法実践の基礎を修得する。
	①③臨床実習 I ①③臨床実習 II ①③臨床実習 III ①③臨床実習 IV ①③臨床実習 V	①③臨床実習 I ①③臨床実習 II ①③臨床実習 III ①③臨床実習 IV ①③臨床実習 V	①③研究法概論 ①③基礎作業療法学演習				作業療法の定義と歴史的背景を理解しこれら学ぶが作業療法を理解する。また、作業療法士が現在求められている多様な役割と作業療法実践に必要な知識を修得するために、作業療法理論や作業活動の治療的応用及び作業療法研究の必要性を理解し科学的根拠に基づいた作業療法実践の基礎を修得する。

DP① 知識・技能	DP② 思考・判断・表現	DP③ 主体性・多様性・協働性
DPの科目別目標はカリキュラムマップを参照		

履修モデル（作業療法学科）

		1 年次				2 年次			
		前 期		後 期		前 期		後 期	
全学共通科目	人間形成科目	○建学のこころ	1						
	一般教育科目	○初年次セミナー	2	地球環境と人間	2			歴史に学ぶ	2
		国際事情	2						
		生命のしくみ	2						
	芸術科目					音楽	1	書道	1
	外国語科目	○Basic English 1	1	○Basic English 2	1	総合英語B-1	1	総合英語B-2	1
		○総合英語A-1	1	○総合英語A-2	1				
	情報・表現科目	情報処理演習Ⅰ	1						
日本語表現法		1							
体育・健康科目	健康科学	2							
学部学科間共通科目	学部間共通科目			口腔健康管理学	2				
		情報処理概論	2						
	学科間共通科目			○基礎ゼミナール	1	○リハビリテーション医学	1		
					○教育学	2			
専門基礎分野科目	人体の構造と機能及び心身の発達	○解剖学Ⅰ	2	○解剖学Ⅱ	1	○解剖学実習	1		
		○生理学Ⅰ	2	○生理学Ⅱ	1	○生理学実習	1		
				○基礎運動学	2	○基礎運動学演習	1		
				○人間発達学	2				
				○臨床心理学	1				
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進			○病理・感染学	2	○神経内科学	2	○内科学	2
				○臨床医学概論	1	○整形外科学	2	○小児科学	1
						○老年医学	1		
						○精神医学	2		
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念			○生命倫理学	1				
				○リハビリテーション概論	1				
	作業療法専門分野科目	基礎作業療法学	○作業療法学概論	2	○基礎作業療法学	1			
作業療法管理学									
作業療法評価学						○作業療法評価学	1	○作業療法評価学演習Ⅲ	1
						○作業療法評価学演習Ⅰ	1	○作業療法動作分析学演習	1
						○作業療法評価学演習Ⅱ	1		
作業療法治療学						○日常生活活動学	1	○日常生活活動学演習	1
								○精神障害作業療法学	2
								○発達障害作業療法学	2
								○老年期作業療法学	2
								○高次脳機能障害作業療法学	2
地域作業療法学					○地域作業療法学	2	○地域作業療法学演習	1	
臨床実習			○臨床実習Ⅰ（見学実習）	1			○臨床実習Ⅱ（地域実習）	2	
取得単位数		21		21		21		21	

○:必修科目

3 年次			4 年次			取得 単位数	
前 期		後 期	前 期		後 期		
						1	
						10	
						2	
						6	
						2	
						2	
緩和ケア論	1					5	
		○健康増進とリハビリテーション	2		教育方法論	2	9
		○女性の健康	1				
							14
○臨床検査診断概論	1	○災害医療	1				16
		○臨床栄養学Ⅰ	1				
○チーム医療連携論	1	○保健医療福祉制度	1				4
○研究法概論	1	○研究法演習	1		○卒業研究	2	8
		○基礎作業療法学演習	1				
○作業療法管理学	2						2
○作業療法学総合演習Ⅰ	1	○作業療法学総合演習Ⅱ	1				7
○身体障害作業療法学Ⅰ	2	○身体障害作業療法学演習	1		○作業療法学セミナー	1	20
○身体障害作業療法学Ⅱ	1	○義肢装具学演習	1				
○義肢装具学	1	○高次脳機能障害作業療法学演習	1				
○精神障害作業療法学演習	1						
○発達障害作業療法学演習	1						
		○予防的作業療法学	1				4
		○臨床実習Ⅲ(評価実習)	6	○臨床実習Ⅳ(総合実習)	8		25
				○臨床実習Ⅴ(総合実習)	8		
13		19		16		5	137

4. 免許・資格

(1) 作業療法士

1) 作業療法士とは

理学療法士及び作業療法士法の第2条において「作業療法士とは、厚生労働大臣の免許を受けて、作業療法士の名称を用いて、医師の指示の下に、作業療法を行なうことを業とする者をいう。」と定められています。作業療法士は医療、保健、福祉など様々な分野で他職種と連携し、基本的動作能力や応用的動作能力、社会適応力の回復を図るため、各種作業活動を通じてアプローチを行うリハビリテーション専門職です。

2) 作業療法士になるためには

作業療法士免許を取得するためには、厚生労働省が所管する「作業療法士国家試験」に合格する必要があります。これは、理学療法士及び作業療法士法第3条に「理学療法士又は作業療法士になろうとする者は、理学療法士国家試験又は作業療法士国家試験に合格し、厚生労働大臣の免許を受けなければならない。」と定められているためです。作業療法士国家試験の受験資格は、文部科学大臣が指定した学校又は都道府県知事が指定した作業療法士養成施設において、三年以上作業療法士として必要な知識及び技能を修得したものに与えられます。作業療法学科では所定の130単位を取得することによって作業療法士国家試験受験資格を得ることができます。

作業療法士コース

科目区分	卒 業 要 件	
全学共通科目	必修 7 単位	選択 15 単位以上を履修
学部学科間共通科目	必修 7 単位	
専門基礎分野科目	必修 34 単位	選択 1 単位以上を履修
作業療法専門分野科目	必修 66 単位	
卒業要件単位数	130 単位以上	

3) 作業療法士の臨地実習

臨床実習では医療機関、在宅、福祉施設などの幅広い実習地先に赴き、作業療法士としての自身を確立していく過程において、役割遂行に必要な高い倫理観を持つこと、チームアプローチを理解し、問題解決に向けた知識・技術の応用を図る態度を養います。

4) 臨床実習参加基準・要件

臨床実習に参加できる基準・要件は次に示す通りです。

実習科目名	年次	履修前提条件
臨床実習Ⅰ (見学実習)	1 年次後期	原則、1 年生後期までに配当されている学部学科間共通科目、専門基礎分野科目、作業療法学科専門分野の必修科目をすべて修得していること。
臨床実習Ⅱ (地域実習)	2 年次後期	原則、2 年生後期までに配当されているすべての必修科目を修得していること。
臨床実習Ⅲ (評価実習)	3 年次後期	3 年生後期までに配置された卒業に必要な必修科目と選択科目の単位をすべて修得済みであること。
臨床実習Ⅳ (総合実習)	4 年次前期	臨床実習Ⅳ・Ⅴ、卒業研究、作業療法学セミナーを除く卒業に必要な必修科目と選択科目の単位をすべて修得済みであること。
臨床実習Ⅴ (総合実習)	4 年次前期	臨床実習Ⅳ・Ⅴ、卒業研究、作業療法学セミナーを除く卒業に必要な必修科目と選択科目の単位をすべて修得済みであること。

履修の手引き

2025 年 4 月発行

発行: 名古屋葵大学 学生支援センター教学支援部門

〒467-8610 名古屋市瑞穂区汐路町 3-40

TEL:052-852-9295 FAX:052-852-1173

<https://www.nagoya-aoi.ac.jp/>